

一八「シベリア」ニ於ケル日本軍ノ撤退問題一件 六五六  
三万二千五百五十三留十二哥ヲ計上シ各新聞及電報ヲ以テ  
殊更ニ公表シツツアルカ右損害ノ主ナルモノヲ挙クレハ左  
ノ如シ

運輸交通 五六、九九九、九一三留三九哥

七五六  
農民 四五、六六四、一九二留九九哥  
陸軍 二五、七八三、一一三留五九哥  
右報告申進候 敬具

## 事項一九「シベリア」及東支兩鉄道管理ニ関スル件

六五七 一月六日 在浦潮永井政務部長代理ヨリ  
内田外務大臣宛

日本軍ノウスリー鉄道運行干渉問題ニ関スル

件

機密軍政送第一号

(一月十二日接受)

大正十一年一月六日

浦潮派遣軍政務部長代理

副領事 永井 清(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

鉄道運行ニ付日本軍ニ対スル米国側ノ批難ニ関スル件  
本件ニ関スル貴電客年合第四二二号華府来電当地野戦交通  
部長ノ申出ニ依リ内示致候処同部長ヨリ之ニ基キ今般別紙  
ノ通り参謀次長及陸軍次官宛反駁文ヲ送附シタル筈ニ付此  
段及報告候 敬具

(欄外註記)

「本件貨車抑留ニ対スル華府全權ノ意見ナリ」

(別紙)

一九「シベリア」及東支兩鉄道管理ニ関スル件 六五七

一月六日附芝生野戦交通部長ヨリ尾野陸軍次官宛交参発第一  
号写

日本軍ニ依ルウスリー鉄道ノ運行干渉ヲ非難セル米国側報道  
ニ付実情報告ノ件

交参発第一号

大正十一年一月六日

野戦交通部長

芝生 佐市郎

陸軍次官 尾野 實信殿

日本軍鉄道運行干渉云々ニ対スル反駁

客年十二月二十四日附外務大臣発永井副領事宛電報ニ依レ  
バ最近華府ニ於テ我軍ノ鉄道運行干渉ヲ非難スル者アリト  
ノ事ナルガ当方面ノ鉄道問題ニ関シテハ既ニ其都度詳細報  
告シタル如ク小官ハ常ニ東支烏蘇里兩鉄道ノ権限ヲ尊重シ  
其營業ノ振興ヲ希望シ居ル次第ニシテ妄ニ鉄道ノ運行ニ干  
渉シタルコトナシ若シ夫レ車輛散逸防止ノ如キニアリテハ

七五七

軍ノ存立上真ニ已ムヲ得ザルニ出デタル自衛ノ手段ニシテ既ニ屢々中外ニ宣言シ我立場ヲ公表シタル所タリ然ルニ米國ニ於テ前述ノ如キ宣伝ノ行ハルハ当方面ニ在ル米國委員等カ殊更ニ我軍ヲ誣ヒシカ為メ事實ニ反スル誇大ノ報告ヲナセルニ基クモノニシテ察スルニ最近行ハレタル烏鉄車輛ノ東支移入調節問題ニ関連スルモノト考ヘラル

抑モ烏鉄車輛ノ東支ヘ向テスル移入問題ハ最初東支側カ北滿貨物輸出ノ為メ烏鉄車輛ノ移入ヲ希望シ小官亦其必要ヲ認メタルモ當時知多側ハ東支ヲ通シテ烏鉄車輛ヲ奪取スルノ企圖アリ而カモ米國委員及東支側亦之ヲ補助スルノ疑アリ斯クテハ烏鉄車輛ヲ散逸シ延イテ日本軍ノ存在ヲ危クスルノ虞アリシヲ以テ小官ハ東支長官ト協定シ千車輛限リ浦潮ハ哈爾濱間循環輸送ニ利用シ（東支ヘノ出越約六百輛ヲ超過セザルコト）夫レ以上烏鉄ノ車輛ヲ流用セザルコトヲ約シ爾來順調ニ北滿貨物ノ浦潮向ケ輸送ヲ實施シ來レリ然ルニ過般前記協定数以上ノ車輛ヲ移出セントセシヲ以テ（沿海州方面不逞団ノ交通破壞防禦ノ為メ我軍ハ目下多数ノ警備用車輛ヲ必要トシ烏鉄ハ車輛ノ不足ヲ訴ヘツツアリ）烏鉄側ニ注意ヲ与ヘ一時「ボクラニチナヤ」ニ於テ之

ヲ顧ミス效ニ開陳スル所以ナリ

通牒先 參謀次長、陸軍次官

本写配賦先 軍參謀長、軍政務部長、第九、第十一師

団參謀長、松村總領事、古川、渡辺技師、浦潮、哈

爾賓支部長

六五八 一月三十一日

在奉天赤塚總領事ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

東支鐵道ノ共同管理案ニ関シ張作霖ノ反対意

見報告並同案阻止方ニ付稟請ノ件

附記 二月四日在ハルビン渡辺技師發鐵道次官宛電報

鉄第二七号

東支鐵道保全策ニ関スルソ聯人重役ノ談話

第三七号

（一月三十一日接受）

東支鐵道共同管理問題華府會議ニ提出セラレタル趣ニテ北京政府ヨリ張作霖ノ意見ヲ徵求シ來リタルニ對シ張ハ同鐵道ト露國トノ關係混沌トシテ曖昧ナル今日ノ場合之ヲ國際共同管理ニ移スハ絶対不可ニシテ殊ニ支那ノ主權ヲ侵害スルモノトシテ極力反對シ若シ之ヲ実行スルニ於テハ東三省支那官憲ハ東支鐵道一帯地域ノ治安維持ニ對シテハ責任ヲ

一九「シベリア」及東支兩鐵道管理ニ関スル件 六五八

ヲ調節シタルコトアルハ事實ナリ

監督協約ノ条文ヨリスレバ車輛ノ調節ノ如キハ當然技術部ノ權限ニ屬スルモ技術部殊ニ米國委員等ハ前記ノ如ク毫モ烏鉄ノ存立ニ意ヲ用フルコト無キノミナラズ反テ知多政權ニ共鳴シテ烏鉄車輛ヲ後貝加爾ニ搬出セントセシコトアル狀況ナルヲ以テ小官ハ軍ノ存立上技術部ニ一任スルコト能ハズ已ムヲ得ズ東支長官トノ協約履行ヲ敢テシタル所以ナリ

米委員「ジョンソン」ハ小官ト東支長官トノ千車輛循環輸送ニ関スル協定ノ存在スルヲ知ラザル管ナキニ之ヲ知ラザル如ク裝ヒ今次ノ「ボクラニチナヤ」ニ於ケル車輛調節ヲ目シテ日本軍ノ運行干涉ナリト叫ビ立テ日本委員ノ説明ヲモ待タズシテ華府ニ電報シタリト謂フ當時華府ニ於テ宣伝セラレタル我軍ノ鐵道干涉ナトノ説ハ思フニ效ニ胚胎セルナラン当方面ニ在ル米國委員ガ我軍並我委員ニ對シ毫モ協調ノ精神ナク事實ヲ枉ゲテ我軍ヲ誣ヒントスルコト多キハ日米兩國親交上深ク遺憾トスル所ナリ

以上ノ真相ハ既報ニ依リ上司ニ於テモ十分諒解セラレアルコトト信ズルモ外務大臣發電ノ次第モアリタルヲ以テ蛇足

負ハザル旨回答シタル処北京政府ヨリ右趣旨在米全權代表ヘ訓令シ飽迄同鐵道ノ共同管理ヲ阻止スルコトニ決定セル趣ナルガ尚ホ張ノ談話ニ依レハ東支鐵道ノ共同管理ハ日支兩國ノ為由々數大問題ニシテ兩國ノ不利坐視スルニ忍ビザルモノアリ依テ此際日本側ニ於テモ同鐵道ノ共同管理案ニ對シ極力之ヲ阻止スル様御尽力ヲ請フ若シ日本側ノ好意ニ依リテ之ヲ阻止スルコトヲ得バ支那國民ノ日本ニ對スル衷心ヨリノ感謝言語ノ竭ス所ニアラザルベク必ズヤ支那人ノ對日感情ヲ融和スル上ニ於テ大ナル好結果ヲ齎スヘシ云々ト語レリ

右張作霖ノ談話及現ニ滿鉄側哈爾濱迄滿鉄列車ヲ直通セシメントスル計画アルニ鑑ミ同鐵道カ共同管理ニ附セラレ米國勢力ノ流入スルハ我北滿政策上甚ダ不利ナリト認メラルルニ付成ルヘクバ之ヲ阻止スル様内密御配慮ヲ請フ尚ホ結果何分ノ儀御回電ヲ請フ

（附記）

二月四日在哈爾濱渡辺技師發鐵道次官宛電報鉄第二七号

ソヴィエト側ノ東支鐵道保全策ニ関スルソ聯人重役ノ談話報告ノ件

鉄第二七号

(二月五日接受)

東支鐵道露西亞重役ハ東支ノ現状ト華府會議ニ於ケル東支鐵道問題ノ形勢トニ鑑ミ本日會議ヲ催シ左ノ如キ意見ニ一致シタルヲ以テ之ヲ東支鐵道ノ權利擁護ノ為メ華府滞在中ナル露亞銀行派遣員ニ通シタリ

東支鐵道ニ於ケル支那ノ勢力ハ日ニ増大スルト共ニ支那政府ハ東支ノ財政ノ上ニモ手ヲ延ハシ其ノ金ヲモ奪ハントスルノ形勢ニ進ミツツアリ即チ昨一年間東支ヨリ支那ニ支払ヒタル金額ハ守備兵ノ為メニ五百八十万、警察費トシテ百七十万、總裁宋小濂ノ為メニ十五万弗ニシテ右ノ外支那ノ裁判所用家屋、沿線軍隊用「バラック」等ノ新設、支那重役等占領ノ家屋及之等家屋ノ煖房等ノ費用ヲ計上スレハ東支收入ノ約四分ノ一ヲ支那ノ為メニ消費セラルルコトナル而シテ支那側重役ト露側重役トハ互ニ相好カラス東支ハ常ニ其圧迫ヲ受ケツツアリ、又華府會議ノ大勢ヲ觀ルニ米國ニ依リ提案セラレタル東支鐵道ノ國際化ハ結局該鐵道ヲ露國ノ手ヨリ奪フコトナルモノナリ斯ノ如クシテ東支鐵道ハ目下支那ノ横暴及國際化ナル二ツノ脅威ヲ受ケツツアリ此ノ際吾人ノ救助ヲ求ムル國ハ仏蘭西及日本ノ外ハアラ

ズ故ニ此ノ二國ノ援助ニ依リ支那ノ圧迫ヨリ脱シ且鐵道ノ國際化ヲ避ケンカ為東支ノ上ニ外交及財政上有力ナル監督權ヲ有スル聯合國ノ管理機關ヲ置クト同時ニ信頼スベカラザル支那ノ守備兵ヲ廢シ聯合國軍事当局指揮ノ下ニ守備隊ヲ組織スルコトヲ要ス云々

右重役ブシカレオフ氏談ニシテ大体信ヲ措クニ足ルモノト認ム、御参考迄ニ報ス

六五九 二月二十二日

内田外務大臣ヨリ  
在浦潮永井政務部長代理宛(電報)

シベリア鐵道管理ニ関シ米國大使ヨリノ希望

申出ニ鑑ミ貴官ニ於テモ米國委員トノ意思疏

通方ニ努メラレ度旨指示ノ件

別電

同日内田外務大臣ヨリ在浦潮永井政務部長代理宛電報第九号

第八号

本月十五日在本邦米國大使本大臣ヲ來訪シ西比利亞鐵道管理ニ関シ從來兎角出先日本側ト米國側トノ間ニ意思疎通ヲ欠ク模様ニテ米國委員ヨリ屢々國務省ニ訴ヘ來ル趣ヲ以テ出先ニ於テ行違ナキ様配慮方ヲ希望シ別電第九号訳文ノ如

キ覺書ヲ提出セリ

右覺書記載ノ事件ニ付テハ陸軍省ニ問合せ中ナルガ申迄モナキ儀ナルモ貴官ニ於テモ平素充分米國委員トノ意思疎通ヲ計ル様力メラレタシ委細郵報

別電ト共ニ哈爾濱ヘ転電シ渡辺ヘ伝ヘシメラレタシ

(別電)

二月二十二日内田外務大臣宛在浦潮永井政務部長代理宛電報

第九号

日本軍憲ノウスリ一鐵道車輛抑留ニ関シ二月十五日在本邦米

國大使提出ノ覺書と訳文

第九号

日本軍憲ハ「ニコリスク」以北ノ烏蘇里線ヲ濫ニ二管区分チタルノミナラズ同地以北ニ於ケル車輛交換ノ調節ヲ擅行シ來レリ

日本軍憲ハ烏蘇里鐵道用ノ機關車十二輛ヲ抑留シ為ニ同線ニ對スル機關車ノ配給ヲ減ジタルヲ以テ東支鐵道ハ烏蘇里線運行ノ必要上同數ノ機關車ヲ貸与スルノ已ム無キニ至レリ

右車輛抑留ハ不法ナル擅有ト云フベク尚此外種々ノ事件ハ

一九「シベリア」及東支兩鐵道管理ニ関スル件 六六〇

露國人ノ列車運轉ヲ阻害スルノミナラズ聯合國間ノ協約ニ違反スルモノナリ

六六〇 三月三十一日

在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛

東支鐵道技術部廢止要求ノ中國政府宛通電ニ

關スル新聞報道ノ件

公第一三八号

(四月五日接受)

大正十一年三月三十一日

在支那

特命全權公使 小幡 西吉(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

北滿各団体ノ東支鐵道技術部廢止要求通電ニ関スル件公第七九号往信ニ關聯シ哈爾濱長春奉天等北滿各地団体ノ東支鐵道國際技術部廢止要求ノ政府宛通電内容三月二十八日北京導報ニ記載セラレタル処其ノ要領左ノ如シ  
東支鐵道問題ヲ外交手段ニ依リ処理スヘシト為セル華府會議ノ留保ハ吾人支那人ノ心裏ニ許多ノ疑問ヲ起シタリ即チ

列國ハ支那人ヨリセバ東支鐵道ニ對スル干涉ガ支那主

權ノ侵害ナルコトヲ認知シタリヤ  
列国ハ右留保ニ依リ華府會議ニ於テ達成シ得ザリシ国  
際管理ノ目的ヲ貫徹セント欲スルカ

列国ニシテ何等他意ナシトセバ何故ニ技術部ヲ廃止セザ  
ルカ元來該部ハ西比利亞出兵ニ伴ヒ設ケラレタルヲ以テ  
撤兵ト同時ニ存在理由ヲ失ヒタルニ拘ラズ今尚存続スル  
ハ列国ニ於テ露支兩國ニ對シ信ヲ破リタルモノナリ茲ニ  
於テカ北滿ニ於ケル人士ハ技術部存続ニ抗議スル為大会  
ヲ開キ団体ヲ組織シタリ本件ニ関スル支那ノ立場ハ鞏固  
ニシテ華府會議ノ宣言カ一片ノ空文ニ止マラザル限り技  
術部ハ直ニ閉鎖スヘキモノナリ

右ニ関シ特筆スヘキハ支那政府カ鐵道沿線ノ生命財産ヲ  
保障スルノ重大ナルヲ充分自覺シタルコトニシテ護路隊  
ノ改善王景春督弁ノ任命路警行政ノ不備ニ對スル人民及  
新聞ノ批難等相俟テ支那カ如何ニ東支鐵道經營ノ改善ニ  
努力シ居ルカヲ窺フニ足ル

斯クノ如ク支那ノ努力スルニ拘ラズ列国ハ依然トシテ何  
等合法ノ根拠無ク支那國民ノ廃止ヲ切望スル技術部ヲ存  
続セント欲スルモノナリヤ

兵ハ同鐵道並露國ニ對スル不斷ノ脅威ナルノミナラズ日  
本ニトリテモ「メルクロフ」政府ヲ助クルノ賢明ナラザ  
ルハ英仏ガ「ウランゲル」「デニキン」ヲ助ケテ失敗シ  
タル実例ニ顧ミテ明ナリ歐洲諸國ガ其ノ復活ノ為ニ勢ヒ  
先ゾ勞農露國ヲ承認セザルヲ得ザルト同様日本モ亦結局  
極東共和國ヲ承認セザルヲ得ザルニ至ルベシ

二、東支鐵道技術部ハ聯合國ノ出兵ニ伴ヒ設ケラレタルモ  
ノナルガ故ニ日本ノ撤兵セザル限り存続シ同鐵道ヲ日本  
ノ手ニ陥ルルノ懸念アルノミナラズ露國現政府反對者ノ  
手ニ委スル虞アリ而シテ

(一)米國ハ常ニ露支ノ同情アル友邦ナルガ故ニ兩國ノ欲セ  
ザル技術部ノ存続ヲ固執セザルベシ

(二)英國ハ既ニ脱退セルカ如シ

(三)仏國ハ戰前ノ對露債權ノ確保上東支鐵道問題ヲ顧慮ス  
ルニ止マルガ故ニ其ノ利害ノ関スル所政治的ヨリモ寧  
ロ經濟的ナルガ故ニ露支兩國ニ於テ仏國ヲ満足セシム  
ルニ足ル協定ヲ締結スルニ至ラバ仏國モ亦必ズシモ技  
術部存続ヲ主張セザルヘシ

(四)日本ハ飽ク迄モ貪慾ニシテ駐兵ニ依リ東支鐵道管理權

何等御參考迄ニ別紙新聞切抜添付此段及報告候也  
註 別紙新聞切抜省略

六六一 四月十日 在中国吉田臨時代理公使ヨリ  
内田外務大臣宛

東支鐵道蒙古回復問題ニ関連シ日本ノ政策ヲ  
批判セル新聞記事報告ノ件

公第一六九号

(四月十七日接受)

大正十一年四月十日

在支那

臨時代理公使 吉田 伊三郎(印)

外務大臣伯爵

内田 康哉殿

東支鐵道蒙古回復問題ニ関聯シ北京「デイリー、ニュー  
ス」ノ日本ノ政策批評ニ関スル件

公第一一八号及第一一三八号等往信ニ関聯シ北京「デイ  
リー、ニュース」ハ四月一日、三日ノ兩度ニ亘リ「多年ノ  
懸案」ト題スル社説ニ於テ主トシテ東支鐵道問題ヲ論シ傍  
ラ蒙古回復問題ニ言及スル所アリタルガ其ノ中日本ニ関ス  
ル部分ヲ要訳スレバ左ノ如シ

一、東支鐵道管理權ハ露支兩國ノミ之ヲ有シ極力其ノ第三  
者ノ手ニ落ツルヲ防止セザルベカラズ日本ノ西比利亞駐

ヲ掌握セントスルモノナルガ故ニ其ノ動機ハ經濟的ヨ  
リモ寧ロ半政治的ナリ而シテ日本ハ強制セラレザル限  
リ撤退セザルベキモ將來之ニ因リテ日露ノ葛藤ヲ招ク  
ノ虞アルガ如キ場合日本資本家ト雖歐洲大戰ノ慘劇ニ  
鑑ミヨモヤ軍閥擁護ヲ敢テセザルベク其ノ然ルニ於テ  
ハ軍閥モ亦撤退ニ同意スルノ已ムナキニ至リ技術部モ  
從ッテ廃止セラルベシ

三、要之日本軍ノ駐屯スル限り技術部ノ廃止ヲ期シ得ザル  
ノミナラズ「セメノフ」「ウンゲルン」「メルクロフ」  
ノ如キ輩ヲ援助スルノ可能性モ亦消滅セザルガ故ニ間接  
ニ彼等ノ庫倫攻撃ヲ惹起スノ危惧モ亦存続スヘシ故ニ此  
際日本カ撤兵シテ誠意ヲ示サバ之ニ依リテ日露友邦關係  
ノ障害ヲ除去スルノミナラズ露支間商議ノ迅速開始ヲモ  
促スニ至ルベシ云云

右ハ殊更ニ日本ノ動機ヲ曲解シ甚ダシキハ動モスレバ露支  
間東支鐵道蒙古問題解決行惱ノ全責任ヲ日本ニ転嫁セント  
スルガ如キ口吻ノ見ユル等例ニ依リテ排日的色彩濃厚ナル  
モ一面日本ノ對支對露政策ニ對スル批評ナルヤニモ存セラ  
レ候ニ付何等御參考迄ニ別紙新聞切抜添付此段及御報告候  
也

註 別紙新聞切抜省略

六六二 五月二日 石丸鐵道次官ヨリ  
埴原外務次官宛

西比利亞鐵道監督業務ニ要スル經費ニ関スル

閣議決定ヲ送付ノ件

附屬書 右閣議決定ヲ

官外第四七号

大正十一年五月二日

(五月三日接受)

鐵道次官 石丸 重美(印)

外務次官 埴原 正直殿

過般御協議申上候西比利亞鐵道監督業務ニ要スル經費ニ関スル件客月二十九日閣議ニ於テ決定相成候條寫及御送付候(附屬書)

大正十一年四月二十九日閣議決定ヲ

西比利亞鐵道監督業務ニ要スル經費ニ関スル件

聯合諸國トノ協定ノ下ニ西比利亞、東支兩鐵道ノ改善ヲ図ランカ為吾國ハ大正八年以來英、米、仏、支各國ト聯合シテ同鐵道ヲ監理致居候處本件ニ関シテハ過般華盛頓會議ニ於テ問題トシテ討議セラレ候モ同會議ニ於テ根本的解決ヲ

見ル能ハス只本問題ハ適當ナル外交機關ヲ通シ速ニ処理スヘキ旨決議セラレ候ヲ以テ早晚右ノ方法ニ依リ解決セラルヘキコトト存候然ル處右解決ヲ見ル迄ハ協定各國トノ關係上從前通監督業務ヲ繼續スルハ已ムヲ得サル次第ニ有之候ニ付從來ノ方針ニ基キ同鐵道ノ監理ヲ行フコトト致度尤モ目下監理ノ為北滿洲並沿海州ヘ派遣致居候人員五十八名ニ有之候モ本年度ニ於テハ其中二十人ヲ減員シ三十八名ヲ以テ監理事務ヲ執行スルコトトシ其予算ハ右二十名召還費用ヲ合シテ約六十三万円ノ見込ニシテ十年度ニ比シ約二十六万円ノ減額ニ有之候然ルニ本問題ハ前述ノ如ク外交機關ヲ通シ早晚其解決ヲ見ルヘキコトト存候條差當リ本年九月末日迄ニ至ル上半期分三十三万五千円ヲ西比利亞、東支兩鐵道監理費トシテ支出承認相成度而シテ十年度監理費予算ハ約十万円ノ剩餘ヲ見候ニ付右三十三万五千円トノ差額ニ十三万五千円ヲ更ニ臨時軍事費ヨリ支出スルコトニ決定相成度

右閣議ヲ請フ

追テ本年度予算ヲ要求スル場合ニ於テハ更ニ根本方針ニ付請議可致旨客年八月二日閣議ニ於テ決定相成居候處其

後華盛頓會議開催セラレ西比利亞及東支鐵道ニ付テモ問題トシテ討議セラレ候モ前述ノ如ク解決ヲ見ル能ハス之ヲ外交機關ノ協定ニ譲リ未タ決定セラルルニ至ラサルヲ以テ本年度予算ヲ要求スルニ先チ其方針ニ付請議スルヲ得サル次第ニ有之候而シテ右外交機關ニ依リ適當ナル解決ヲ見其方針ニ變更ヲ来シタル場合ニ於テハ更ニ請議可致候

六六三 五月六日

内田外務大臣ヨリ  
在ハルビン山内總領事宛(電報)

日本政府又ハ滿鉄ノウスリ一鐵道租借説ハ虚

構ナル旨オザルニシテ通知方並齊多側トノ連

絡保持方ニ付訓令ノ件

第四一號

貴電第六八号ニ関シ日本政府カ烏鉄ヲ租借セムトスルヤノ風説ハ全然虚構ノ義ナルノミナラズ巷間滿鉄ノ烏鉄租借ノ風説アルモ是亦虚構ノ訛伝ナルニ付「オザルニン」ニ對シ右ノ趣ヲ非公式ニ通知セラレタク尚貴官限リノ御含ミ迄ニ申進スルガ帝國政府ハ大連會議不調ノ今日ト雖東部西比利亞ニ於ケル諸問題ハ可成速ニ之ヲ解決シタキ希望ヲ有スル

一九「シベリア」及東支兩鐵道管理ニ関スル件 六六三 六六四

ニヨリ露西亜側ヨリ右ニ付重テ交渉方申出ヅル場合ニハ先方ノ誠意ヲ見届ケタル上更ニ其希望ニ応ズルモ差支ナシト思考シ居ルニ付貴官ハ右ノ意ヲ躰セラレ「オザルニン」等ヨリ何等カノ申出アル場合ニハ程ヨクアシラヒ事宜ニヨリテハ之ヲ非公式ニ當方ニ取次カルルモ差支ナク旁々齊多側等トノ間ニ相當ノ連絡ヲ保持シ置カルル様致シタシ

六六四 六月八日

内田外務大臣ヨリ  
在ハルビン山内總領事宛(電報)

東支鐵道ニ對スル融資ノ手續ニ関シ指示ノ件

第六八号

貴電第一一三号及第一二四号ニ関シ

曩ニ滿鉄保証ノ下ニ鮮銀等ヲシテ東支鐵道ニ資金ヲ融通セシメタル當時ト今日トハ事態著シク變化シ殊ニ華府會議以來同鐵道援助問題ニ付テハ列國協調ノ主義確立スルニ至レル次第ニシテ仮令少額トハ云ヒ此際我方單獨ニテ資金融通ヲ計ルカ如キ跋扈ノ態度ニ出ヅルハ面白カラザルニ付此際ハ矢張り華府會議決議ノ趣旨ヲ尊重シ東支鐵道側ヨリ正式ニ技術部ニ申出デシメ技術部ニ於テモ其必要ヲ認メ我方ニ相談シ来ラバ之ニ応ズルコトトシ度キニ付右趣旨ニテ可然

七六五

応酬方渡辺へ伝達アリ度シ尚未私軍事輸送費ノ支払ハ何等如上ノ懸念ナクシテ東支鐵道援助ノ実ヲ挙ゲ得ベキニ付本件借款ニ代ヘ之ヲ実行スルモ一策ナルヘシト思考スル処右ニ付渡辺ノ意見ヲモ徴シ貴見回電アリ度シ

右鐵道省トモ協議済

貴電ト共ニ在支公使、政務部長ニ転電アリ度シ

六六五 六月十七日

在ヘルビン山内総領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

東支鐵道ヨリ五十万円緊急融資方申出ニ付請

訓ノ件

第一四二号

(六月十八日接受)

貴電第六八号ニ関シ

今回東支側ヨリノ金融申出ニ関シテモ我方トシテハ公正ナル態度ヲ執リ公然鐵道側ヨリ技術部ニ申出デシメ同部ノ決議ニ依リ我方ニ依頼スルコトナリタル上ニ於テ考慮ヲ加ヘラレタキ御意見ノ処從來東支ニ対シ各方面ヨリ小額ノ金融ヲ為セル場合ニハ一々斯カル鄭重ナル手續ヲ加ヘ居ラズ且右等ノ遺線ハ其都度技術部ニ対スル報告書ニ之ヲ記載セルモ何等問題ヲ起シタルコトナク(最近ニ於テ斯カル例ア

リ)斯ノ如キハ金額ノ点ヨリスルモ亦其頗ル短キ期間ヲ以テスル点ヨリ觀テモ普通一般ノ金融機關ノ取引行為ト認メ別ニ所謂借款ノ性質ヲ具備スルモノト見ザルノ結果ト認メラレ居ルモノノ如ク仮令財政困難ニ陥リ居レリトハ言フモ東支位ノ大鐵道ニ於テ僅カ五十万円位ノ金融ヲ為スニ別段非常ナル援助ヲ為シタルモノトシテ他国側ヨリ嫉視ヲ受クベシトモ思ハレズ若シ又一步ヲ譲リテ之ヲ云為スルモノヲ生ズルトシテモ滿鉄ト東支間ニハ種々取引アル儀ニ付右ノ一部ヲ決済スルヲ其保障ノ下ニ金融ヲ附ケタルモノニシテ政府ヨリ必ズ忠告ヲ受ケ之ニ指揮ヲ与ヘザルベカラザル程ノ重要事ニアラズ運輸会社間若クハ右ト銀行間ノ日常取引ナリトノ説明ヲ加ヘ首肯セラレザル答ナキ様ニモ思ハレ我方ニ於テ非常ニ堅苦シク詮議立スル程實際問題トナルノ虞ナキコトト存ゼラルルニ付尚一応御考量ヲ加ヘラレ帝國政府ハ毫モ関知セラレザル商取引ノ意味ニ於テ本件御許可アル様致シタシ

而シテ東支ノ現状ハ非常ニ金融ニ詰マリ居ルコト申ス迄モナク殊ニ右ニ対スル救済ハ常ニ露亜銀行ニ於テ当リ居リ仏国側モ我方ヲ頗ル力ト為シ居ル有様ニ付斯ク何等心配スベ

キ程ノ非難ヲ受クル危険ナキ場合ニ於テ僅兩三ヶ月ニ亘ル間ニ対シテモ金融ヲ計リ遣ル時ハ仏露側ハ勿論珍シク日本側ヨリ金融ヲ附クルニ賛成シタル支那側ニ対シテモ金額ノ小ナルト我方心配ノ少キトニハ逆モ比例出来ザル好感ヲ与ヘ得ルコト疑ナク從テ之ガ仲介タル渡辺技師ノ立場ハ從來ヨリモ更ニ進デ有力トナリ向後東支ヲ操縦スルニ対シ幾多ノ便益ヲ得ルニ至ルベク頗ル機宜ヲ得タル御措置ト信ゼラル尚軍隊輸送費ハ大正七年八月ヨリ同年十二月迄ノ間ニ於テ大約六百六十万米弗支払フベキニ対シ十年十二月ニ於テ約六百三十万弗ノ支払ヲ了居リ其後十一年一月ニ金十

次第ナラバ已ムヲ得ズ右軍隊輸送費支払ノ件ヲ問題トセラ

六六六 六月二十六日

内田外務大臣ヨリ  
在ヘルビン山内総領事宛(電報)

東支鐵道ノ融資方申出ニ関シ回訓ノ件

第七八号

貴電第一四二号ニ関シ

前電ニテモ申進シタルカ如ク東支鐵道援助問題ニ付テハ華府會議以來列國協調ノ主義確立スルニ至レル次第ニシテ額ノ大小若シクハ眼前ノ小利ヲ云々スベキニ非ズ特ニ少額ノ融通ヲ以テ先方ノ好意ヲ希望シ我立場ヲ良好ナラシムベシトナスガ如キハ首肯シ難シ尤モ御来示ニ依レバ本件ハ金融機關普通一般ノ商取引ト扱フ所ナク且ツ從來ニ於テモ其ノ例アリシニ拘ラズ何等問題ヲ起サザリシトノコトニ付銀行側ニ於テ以上ノ趣旨ニテ短期間金融ヲナスモノトセバ強テ異存ナシ尤モ渡辺技師ヨリ鐵道省宛ノ電報ニヨレバ已ニ「インターナショナル、バンキング、コーポレーション」

「インターナショナル、バンキング、コーポレーション」

ヨリ融通セル趣ニテ此ノ上我方ヨリ融通ノ要ナカルベキヤト思考ス満鉄及銀行側ニモ右ノ趣旨ヲ伝ヘ置ケリ  
貴電ト共ニ北京奉天ヘ転電アリタシ

六六七 七月十九日 在ハルビン山内総領事ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

長春會議ニ関スルスチーヴンス書翰ト之ニ対  
スル我方態度ニ付渡辺ニ対シ鐵道省ヨリ訓令  
方稟請ノ件

附記 七月二十二日渡辺技師ヨリ鐵道次官宛電報鉄第  
二二八号

第一九〇号 （七月二十日接受）

長春會議ニ関シ「スチーヴンス」ヨリ「オストロモーフ」ニ宛テタル第一及第二ノ書翰並ニ右ニ対スル東支側ノ態度等最近財政委員會ニ於テ長春會議ノ東支ニ及ボス利害ヲ研究中ナルコト及右ニ関シテ渡辺ヨリ同委員會ニ提出セル意見書並ニ之ニ対シテ「ベケット」ヨリ提出セル反駁の意見書等ニ関シ渡辺ヨリ其都度鐵道次官宛ニナセル詳細ナル報告並ニ我方ノ執ル可キ態度ニ関スル渡辺ヨリノ隨時ノ請訓及之ニ関スル同次官ヨリ電訓ノ模様ハ既ニ詳ク御承知ノ通

助長スルノ虞アルベク旁々我方ハ単ニ長春會議ノ通過ヲ計ルノミヲ以テ満足スルコト能ハズト思考ス

右ニ関シ渡辺ハ七月十五日「スチーヴンス」ニ会见シ先ヅ長春會議ノ利害ニ関スル意見ヲ詳述シ直接右ニ対スル彼ノ考ヲ叩キ尚本件向後ノ推移ニ関スル予測ノ基礎ヲ得ントスル管ナルモ從來ノ様子ヨリ見テ英米側ハ此機會ヲ利用シ「オストロモーフ」ニ打撃ヲ与ヘ技術部ノ威信維持ノ名ノ下ニ其權威ヲ張ラント画策スルモノト想像セラル我方トシテハ是等纏綿セル形状ニ応ジ最モ我立場ヲ救フニ足ルノ策ニ出ヅルノ必要アリ即チ通過不通過ノ決定ニ関シテ何等未練ヲ抱カズ技術部會議ニ長春會議ノ決定ガ議題トナルハ已ムヲ得ズトスルモ其内容ニ互リ論議セラルルヲ絶対ニ防止スルノ方針ニ出デ以テ漫然トシテ英米殊ニ「スチーヴンス」ノ權力消長策ニ追従スル事ナク我方ノ立場ヲ樹立スルノ途ヲ執ラザル可カラズト思考ス右ニ関シ技術部會議ニ本問題ノ上ラントスル時ニ当リ先ヅ第一ニ右ハ昨年ノ長春會議ニ対スル技術部ノ態度ト差異アル事ヲ力説シテ直接ニ之ヲ妨グルノ方法ヲ採リ次ニ右ニ依リ成功ノ見込ナキ場合ニハ技術部長権限問題ヲ提出シ「スチーヴンス」ヨリ「オス

ニテ鐵道次官訓令ノ通り先ヅ第一ニ本件ガ技術部ノ會議ニ掛ラヌ様努力スルコト次ニ技術部會議ニ上ルコト止ムヲ得ザル場合ニハ之ガ通過ヲ計ルコトハ一応尤ナル見解ノ如キモ「スチーヴンス」ガ書翰ヲ送リタル當時ニ於テ東支並ニ他國委員中ニ於テ明確ナル態度ニ出デズ本件ガ財政委員會ノ議題トナリ来レル成行ヨリ見レバ次デ技術部會議ニ上ルコトトナルベキ運命ニ在ルコト殆ド疑ヲ入ルルノ余地ナク仮ニ財政委員會ニ於テ有害説ヲ主張スルハ英國委員ダケニテ他ノ委員ハ渡辺幹旋ノ結果無害説ヲ採用スルトスルモ同委員會ノ結果ハ委員長タル米國委員ヨリ「スチーヴンス」ニ報告セラルベク次デ技術部ノ問題トナルモノト認メザルベカラズ而シテ其ノ際ハ長春會議東支ニ及ボス利害問題ノ点ヨリハ寧ロ技術部長再応ノ通告ヲ無視シテ本件ヲ断行セル東支側ノ態度ヨリ引イテ工事部ノ威信問題トシテ論議サレ何等カ鐵道當局者ノ責任問題ヲ惹起セズンバ止マザルノ氣勢アリ若シ仮ニ右結果「オストロモーフ」ノ引責辭職ヲ見シカ彼個人トシテハ別ニ惜ムニ足ラズトスルモ向後東支當局ノ間ニ米國側ノ威勢益々行ハレ其鼻息ヲ窺フノ惡弊ヲ

トロモーフ」ニ宛タルモノノ如キ重要ナル書簡ヲ發送スル際ニ他ノ技術部委員ノ意見ヲ聴取セザリシ不都合ヲ鳴ラシ以テ「スチーヴンス」ガ主張スルニ至ル可キ所謂技術部長威信問題ヲ根底ヨリ覆スノ方案ヲ採用スルヲ要スル事ト存ズルガ右ニ関シテハ既ニ仏國委員タル「ビパノン」氏曩ニ本官ニ対シ仏國領事並自分トシテ頗ル「スチーヴンス」ノ專横ナル行動ヲ憤リ居リ何等カノ機會ニ之ヲ抑制スル事急務ナリト明言シタル事ト並「ド、ホイヤー」ガ其際洩シタル所感等ヨリ見テ仏、露側ハ喜ンデ賛同ス可ク且支那側モ同様ノ態度ニ出ヅ可シト認メラルルニ付技術部ノ他ノ委員ノ態度右ノ如キヲ觀測セバ「スチーヴンス」ハ却テ銳鋒ヲ避クルノ舉ニ出ヅ可シト察セラル但斯カル方針ハ或ハ「スチーヴンス」ノ感情ヲ害スルヨリ延イテ米國側ニ対シ面白カラザル結果ヲ起ス可シトノ御懸念モアランモ事實上「スチーヴンス」最近ノ行動ハ頗ル專横ヲ極ムルヲ以テ斯カル機會ニ彼ニ反省ヲ促スハ最モ妙ナル可ク又之ガ為若シ延イテ監督協約全般ニ互リテ何等カ問題ヲ起スノ虞アリトスルモ同協約ニ関シテハ最近ニ於テ何等カノ更改ヲ加フルノ要アル次第ニ付旁々右ハ早晚發生ス可キ問題ノ出現時期ヲ早

一九「シベリア」及東支兩鐵道管理ニ関スル件 六六七

メタリト云フニ帰着ス可シト存ゼラル「スチーヴンス」ヨリ第一書簡ヲ送致ノ節渡辺ヨリ将来ニ於ケル我方ノ態度ニ関シ請訓ノ次第アリ右ニ対スル適切ナル訓令鐵道省ヨリ到達セザル内ニ事件ハ進行シテ茲ニ至リ今日前途ニ難関ヲ控フルニ至レル有様ニテ差当リノ問題ヲ併セテ将来ノ状勢大ニ憂慮ニ堪ヘザルモノアリ至急我方ニ於テ執ル可キ態度御決定ノ上渡辺ニ対シ何分ノ訓令ヲ鐵道省ヨリ發セシムル様御詮議相成タシ

(附記)

七月二十二日在哈爾濱渡辺技師ヨリ鐵道次官宛電報鉄第二二八号

長春會議ノ協定ヲ技術部ニ附議スルコト得策ニ非ザル旨渡辺技師ヨリスチーヴンスニ申入ノ件

鉄第二二八号

(七月二十三日接受)

今二十二日小官スチーヴンス氏ニ面会二十日小官ヨリ送り置キタル長春協定ニ関スル意見書ヲ見タルカ否ヤヲ聞キタル後小官ハ同氏ニ向ヒ仏、支委員共大体ニ於テ東支ニ不利益オラズト認メ居ルコトハ君モ承知ノ通ナリ実行ノ結果ノ如何ニナルベキヤハ他ニ種々ナル事情ニモ因ルコト故何人

七七〇

モ之ヲ予知シ難キモ各委員ノ意見上記ノ如シトセバ少クモ試ニ之ヲ実行スルコト差支ナシト思フ而シテ本問題ヲ技術部ニ附議スルニ於テハ東支ノ權利問題其他種々錯綜シタル問題ノ惹起スル虞ナキニ非ザル故此ノ際本問題ヲ不問ニ附スル方「ワイズ」ナル処置ト思フ如何ト語リシニ

同氏ハ自分ハ「オ」氏ガ技術部ヲ近來「イグノア」スルノ傾アルガ故其ノ威信ヲ保タンガ為問題ヲ提起セントシタルモノナルガ各委員ノ意向前記ノ如シトセバ之ヲ議スルモ効ナシ、財政委員会ヨリノ報告ヲ俟テ之ヲ技術部ノ記録ニ殘スコトニセントス云々依テ小官ハ技術部ノ討議ニ附セザルヤニ付輕ク念ヲ押シタルニ討議ニ附セズト答ヘタリ

去ル十九日仏領事ハ近來「ス」氏ノ専斷の行為ニ付反省ヲ促ス為之ヲ米國領事ニ話シタル旨山内総領事ニ話アリタル由之ハ本事件ニ影響ヲ与ヘタリト思フ

財政委員会(來ル月曜二十四日開カルヘシト思フ)ノ様子ヲ見タル上ナラデハ確言シ難キモ「ス」氏ノ態度上記ノ如クナル故本件ハ面倒ナル問題トナラズシテ済ムト思ハル右不取敢報ス

六六八 七月二十二日

在本邦米國大使館ヨリ  
内田外務大臣宛

東支鐵道管理撤廢提議ニ関スル件

EMBASSY OF THE

UNITED STATES OF AMERICA

MEMORANDUM

The impending withdrawal of Japanese troops will definitely terminate the Inter-Allied Railway Agreement of January, 1919. The United States values very highly the international cooperation which was brought about by that agreement and feels that the agreement should not be allowed to lapse without a common understanding being reached as to future action.

The stated purpose of the 1919 agreement was temporarily to operate the Chinese Eastern and Trans-Siberian Railways in the interests of the Russian people with a view to their ultimate return to those in interest without the impairing of any

一九「シベリア」及東支兩鐵道管理ニ関スル件 六六八

existing rights. The Governments of Japan and the United States and to some extent other governments have expended money and material in aid of the maintenance and operation of the railway. It is a matter of general concern that the railway should continue to exist as a free avenue of commerce and to be operated efficiently. These considerations induced the representatives of the Powers other than China at the recent Washington Conference to consider and support measures for a continued general supervision of the affairs of the Chinese Eastern Railway but China resting upon sovereign rights objected to the proposals made. The result was the adoption of the following resolution:

#### 1. RESOLVED

That the preservation of the Chinese Eastern Railway for those in interest required that better protection be given to the railway and the persons

七七二



engaged in its operation and use and a more careful selection of personnel to secure efficiency of service and a more economical use of funds to prevent waste of the property. That the subject should be immediately dealt with through the proper diplomatic channels.

At the same time the Powers other than China adopted the following:

2. The Powers other than China in agreeing to the resolution regarding the Chinese Eastern Railway reserve the right to insist hereafter upon the responsibility of China for performance or nonperformance of the obligations towards the foreign stockholders, bondholders and creditors of the Chinese Eastern Railway which the Powers deem to result from the contracts under which the railway was built and the action of China thereunder and the obligations which they deem to be in the nature of a trust resulting from the exercise

of power by the Chinese Government over the possession and administration of the railroad.

Having regard to the foregoing facts the Government of the United States desires to propose that the Powers concerned proceed in the near future to the winding up of the Inter-Allied Committee and the Technical Board created by the 1919 agreement and that the Powers other than China adopt a common course of action in that connection, to wit that these Powers should confirm the resolutions above quoted relating to China's responsibility that they should so far as there may be occasion reserve all rights with respect to advances in money or material made in aid of the railway; that they re-affirm their concern in the preservation of the railway, its equipment, operation and its maintenance as a free avenue of commerce open to the citizens of all countries without favor or discrimination; that they inform the Chinese

十二日附在本邦米國大使館覽書訳文

今ヤ將ニ行ハレムトスル日本軍隊ノ撤退ハ一九一九年一月ノ聯合國鐵道協約ヲ決定的ニ終止スヘシ米國ハ該協約ニ依リ生シタル國際協力ノ価値大ナルヲ認メ将来ノ措置ニ關シ一致諒解ニ達スルコトナクシテ該協約ヲ終了セシムベカラザルヲ感ズルモノナリ

一九一九年協約ノ公言セル目的ハ現存ノ權利ヲ害スルコトナク利害關係者ニ結局還附スルノ目的ヲ以テ東支及西比利亞橫斷鐵道ヲ露西亞國民ノ利益ノ為一時運用スルニ在リタリ日米兩國政府並其ノ他諸國政府モ幾分鐵道ノ維持及運用ヲ助クル為金錢及材料ヲ費セリ該鐵道カ商業上ノ自由通路トシテ存続シ有効ニ運用セラレムコトハ一般ニ顧念セル所ナリ

此等ノ考量ハ最近華盛頓會議ニ於ケル支那國以外ノ諸國代表ヲシテ東支鐵道業務ノ一般的監督繼續方法ヲ考量支持セシムルニ至リタルガ支那國ハ主權ニ依拠シ右提議ニ反対シ其ノ結果左記決議ノ採用ヲ見タリ

一、左ノ如ク決議ス

東支鐵道ヲ其ノ利害關係者ノ為ニ保全スルニ付テハ鐵道

Government that they purpose to continue to observe carefully the administration and operation of the railway and the manner in which China discharges the responsibilities which she has assumed; and that they apprise the Chinese Government at the same time of their entire good will and readiness to assist or cooperate at any time in any practicable way with a view to conserving the railway property and assuring efficient operation in the interests of all concerned.

Tokyo, July 22, 1922.

To the

Imperial Japanese Minister  
of Foreign Affairs,

Tokyo.

(欄外註記)

「大正十一年七月二十五日米大使來談手交(内田外相印)」

(右和訳文) (註 日本外務省係官ニ於テ職務上ノ參考ノ為作成シタル仮訳文ナリ)

米國ノ西比利亞鐵道管理撤廢提議ニ關スル一九二二年七月二

一九「シベリア」及東支兩鐵道管理ニ關スル件 六六八

ニ対シ並其ノ運用及使用ニ從事スル者ニ対シ一層ノ保護ヲ与フルコト、業務ノ能率ヲ挙クル為職員ノ選任ニ一層留意スルコト且財産ノ消耗ヲ防ク為資金ノ使用ヲ一層經濟的ナラシムルコトヲ必要トス本問題ハ適當ナル外交機関ヲ通シ速ニ処理セラルヘシ

右ト同時ニ支那国以外ノ諸国ハ左記決議ヲ採用セリ

二、支那国以外ノ諸国ハ東支鐵道ニ関スル決議ヲ協定スルニ当リ前記諸国カ該鐵道建設ノ基礎タル契約及之ニ基ク支那国ノ行為ヨリ生スルモノト認ムル東支鐵道会社ノ株主社債権者及債権者タル外人ニ対スル義務並該鐵道ノ占有及管理ニ対スル支那国政府ノ権力行使ヨリ生スル義務(前記諸国ハ此ノ義務ヲ以テ信託ノ性質ヲ有スルモノト認ム)ノ履行又ハ不履行ニ関スル支那国ノ責任ニ付今後主張スルノ權利ヲ留保ス

以上ノ事實ニ顧ミ米政府ハ關係諸国カ一九一九年協約ニ依リ創設セラレタル聯合國委員会及技術部ヲ近キ將來ニ於テ廢止スルノ措置ヲ取ラムコト及支那国以外ノ諸国ハ此ノ關係ニ於テ一致ノ方針ヲ採ラムコト即チ支那ノ責任ニ関スル前記決議ヲ確認スヘキコト該鐵道援助ノ為ニシタル金銭

及材料ノ貸付ニ基ク一切ノ權利ハ須要ニ応ジ之ヲ留保スヘキコト該鐵道ノ保全設備運用及各国民ニ対シ無差別ニ開放セラルル商業上ノ自由通路トシテ該鐵道ノ維持セラルルコトニ対シ列国ハ利害關係ヲ有スル旨重ネテ確認スルコト該鐵道ノ經營運用及支那国カ引受ケタル責任ノ履行方法ニ付引続キ注視スヘキ旨ヲ支那国政府ニ通告スルコト及右ト同時ニ支那国政府ニ対シ列国ハ利害關係者全体ノ利益ノ為鐵道財産ヲ保全シ有効ナル運用ヲ確保スル為実行シ得ヘキ方法ニ依リ何時ニテモ十分ナル好意ヲ以テ援助又ハ協力ヲ辞セサルヘキ旨通告スルコトヲ提議セムト欲ス

六六九 八月八日 閣議決定

米政府ノシベリア鐵道管理撤廢提議ニ対ス

ル我回答覚書案ニ付請議ノ件

附記

七月二十八日附外務省亜細亞局意見書

東支鐵道ニ関スル日本政府ノ方針

覺書

日本帝國政府ハ本年七月二十二日附米國大使館覺書ヲ閱悉セリ日本國政府ハ米國政府カ右覺書冒頭ニ於テ近ク実行セラルヘキ日本軍隊ノ撤退ニヨリ一九一九年一月ノ聯合國鐵

道協約ハ決定的ニ終止セラルヘキ処米國ハ該協約ニ依リ生シタル國際協力ノ価値大ナルヲ認メ將來ノ措置ニ関シ一致ノ諒解ニ達スルコトナクシテ該協定ヲ終了セシムヘカラサルヲ感ストノ所見ヲ開陳セラレタルニ対シ全然同感ノ意ヲ表スルモノニシテ一九一九年東支及シベリア鐵道監督協約ノ目的カ東支及西比利橫斷鐵道ヲ露西亞國民ノ利益ノ為一時運用スルニアリタルハ米國政府カ前記覺書ニ説述セラレタル通りニシテ又支那カ東支鐵道ニ関シ如何ナル權利ヲ行使スルニ拘ラス其ハ信託ノ性質ヲ有スルモノニシテ從ツテ支那ハ該信託ヨリ發生スル義務ノ履行若ハ不履行ニ対シ責任ヲ負フヘキコトニ付最近華盛頓會議ニ於テ支那以外ノ諸國間ニ見解ノ一致アリタル次第ハ前頭覺書中ニ引用セラレタル決議ニ徴シ明カナリ此了解ノ下ニ帝國政府ハ米國政府今回ノ提議即チ關係列國ハ一九一九年協約ニ依リ創設セラレタル聯合國委員会及技術部ヲ近キ將來ニ於テ閉鎖スルノ措置ヲ取ラムコト及支那国以外ノ諸国ハ此關係ニ於テ一致ノ方針ヲ採リ(一)支那ノ責任ニ関スル前記決議ヲ確認スルコト(二)該鐵道援助ノ為ニシタル金銭及材料ノ貸付ニ関スル一切ノ權利ハ須要ニ応ジ之ヲ留保スヘキコト(三)該鐵道ノ設

備、保全、運用、及各国民ニ対シ無差別ニ開放セラルル商業上ノ自由通路トシテ該鐵道ノ維持セラルルコトニ付列國ハ利害關係ヲ有スル旨重テ確認スルコト並ニ(四)該鐵道ノ經營運用及支那国カ引受ケタル責任ノ履行方法ニ付引続キ注視スヘキ旨ヲ支那国政府ニ通告スルコト及(五)右ト同時ニ列國ハ利害關係者全体ノ為メ鐵道財産ヲ保全シ有効ナル運用ヲ確保スル為メ実行シ得ヘキ方法ニヨリ何時ニテモ東支鐵道ニ対シ援助又ハ協力ヲ辞セサルヘキ旨支那国政府ニ通告スルコトニ贊同セムトスルモノナリ

尚日本政府ハ過去ニ於テ東支鐵道ニ対シテハ其世界商業ノ自由通路トシテ維持セラレンカ為メ日米兩國ヨリ少カラズ資金ヲ供給シ居レルヲ以テ其經營狀態ノ監視ヲ続行スルノ必要ヲ認ムルモノニシテ將來東支鐵道ニ対シ財政若ハ其他ノ援助又ハ協力ヲ与フヘキ機會アル場合ニハ何時ニテモ關係諸國ハ過去三年間本問題ニ付日米兩國政府間ノ協力ノ特徴タリシ協議協調ノ精神ニヨリテ行動センコト希望ニ堪エス

(欄外註記)

「大正十一年八月八日閣議決定(内田外相印)」

註 右實書ハ同一機密信ヲシ別紙英訳文添付ノ上同日在本邦米  
国大使館宛ニ送致セラレタリ

(別紙)

大正十一年八月八日附在本邦米国大使館宛我實書ノ英訳文

### Memorandum

The Japanese Government have examined the American Ambassador's memorandum of July 22, and wish to state that they are happy to share the view expressed in the opening part of the memorandum, that the impending withdrawal of Japanese troops will definitely terminate the Inter-Allied Railway Agreement of January, 1919, and that the U. S. appreciating highly the international cooperation which was brought about by that agreement, feels that it should not be allowed to lapse without a common understanding being reached as to future action.

The purpose of the 1919 agreement was, as stated in the above mentioned memorandum, to

operate temporarily the Chinese Eastern and the Trans-Siberian Railways in the interest of the Russian people. It is also clear from the resolution quoted in the said memorandum that the Powers other than China at the recent Washington Conference are united in the view that whatever power China may exercise in connection with the Chinese Eastern Railway it is in the nature of a trust and consequently China is responsible for performance or nonperformance of the obligations resulting from such trusteeship. With such understanding the Japanese Government are prepared to join the proposals made by the Government of the United States that the Powers concerned proceed in the near future to the winding up of the Interallied Committee and the Technical Board created by the 1919 Agreement, and that the Powers other than China adopt a common course of action in that connection, to wit:

in the interest of all concerned.

Further it may be added that, the Japanese Government, recognizing the advisability of keeping a continued watch over the management of the Chinese Eastern Railway, for which both the Japanese and American Government have in the past supplied no small amount of fund in order that it be kept as a free avenue of the world's commerce, hope that whenever there arises occasion for lending financial or other assistance or cooperation to the Chinese Eastern Railway, the Powers concerned will be guided in their action by the spirit of mutual consultation and accord, which for the last three years has so happily marked the cooperation of the Japanese and American Government in this matter.

Tokyo, August 8th, 1922.

(附 記)

ヤ月二十八日附外務省通細局意見書

東支鐵道ニ関スル帝國政府ノ方針

一、七月二十二日附米國大使持参ノ覺書ハ要スルニ我西比利亞並ニ北滿ノ駐屯軍ノ撤退ト共ニ大正八年（一九一九年）ノ所謂聯合國協定ナルモノハ当然失効スヘキニ依リ右協定ニヨリ成立シ居ル浦潮ニ於ケル聯合國鐵道委員會並ニ哈爾濱ニ於ケル聯合國技術部ナルモノハ当然消滅スヘキモノナリ是等機關ノ消滅後ト雖東支鐵道ニ関スル華府會議ノ決議ノ趣旨ニ基キ聯合國ハ共同ノ態度ヲ以テ是等ガ措置ニ任シ鐵道經營ニ関シテハ支那政府ニ於テソノ責任ニ任スルモノナルコトヲ明カニシ尙列國ハ鐵道財産ノ保護並ニ鐵道運行ノ狀態ヲ善良ナラシムル目的ヲ以テ是ニ對シ援助ヲ与ヘ若クハ協力ヲナスノ用意アルコトヲ支那政府ニ通告スヘシト云フニ在リ

米國カ「スチーヴンス」一流ノ考ヲ採用セズ從來提示ノ意向ヲ變更シテ今回ノ提議ヲナシ来リタルハ米國ノ所謂氣ノ変リタルニ因ルナランモ他方華府會議以來日本ノ信用次第ニ高マリ米國モ自然北滿其他ニ於ケル監視的視聽薄ラギ来レルモノ多キニ依ルベシ

二、右米國政府ノ提議ハ華府會議ノ決定ヲソノ儘実行セン

是ニ當ルヘキ旨ヲ通告スルト共ニ其ノ經營狀態ノ監視ノ為メニハ今後何等聯合國共同ノ機關ヲ設ケズ在哈爾濱列國領事團ヲ以テ是ニ當ラシムルコト

(4)東支鐵道ノ援助協力ニ就イテモ米國政府提案ノ通り支那政府ニ對シ聯合國ニ於テ其ノ用意アルコトヲ通告スルト共ニ財政援助ノ結果必要トナルヘキ經營ノ監督ニ就イテハ別ニ新タナル機關ヲ設クルコトナク前項領事團ヲ以テ之ニ當ラシムルコトスヘシ若シ是ガ為メニ特ニ財政專門家ヲ必要トスル場合ニハ該專門家ヲ領事團ニ附隨セシムレバ充分ナルヘシ

(5)因ニ東支線以外ノ西比利亞線ニ至テハ自ラ別個ノ問題ニ屬スト雖右ト同一ノ精神ニ基キ要ハ知多政府ヲシテ其改善運行ノ責ニ任セシメ漸次戰前ノ常態ニ復セシムルニアリ

六七〇 八月十二日 在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛

東支鐵道社債發行ニ関シ露亞銀行代表者ヨリ

四國銀行代表者ニ對シ援助要請ノ件

附屬書 正金銀行支店發頭取宛通信寫

一九「シベリア」及東支兩鐵道管理ニ関スル件 六七〇

トスルニアリ他ニ差當リ鐵道ノ國際管理若クハ財政援助ニ関スル具體的考案ヲ提出シ来リタルモノニアラズ從ツテ我方ニ於テハ何等異存アルベキ理由ナシ

北滿地方ニ列強ノ勢力ヲ入ルルコトハ如何ナル形ニ於テ是ヲナスニ拘ラズ日本トシテハ反對セザルヲ得ズ從テ東支鐵道ノ經營自体ノ問題ハ寧ロ露支兩國間ノ問題トシ成ルベク列強ノ關係ヲ少ナクスルコトヲ最得策トス

三、因ツテ右米國政府ノ提議ニ對シテハ左ノ趣旨ヲ以テ回答スヘシ

(1)米國政府ノ提議ノ趣旨タル華府會議ノ決議実行ニ就テハ帝國政府ハ全然同感ノ意ヲ表ス

(2)從テ大正八年ノ管理協定ハ廢止セラレ鐵道委員會並ニ技術部モ当然其ノ存在ヲ失フコトナル其ノ結果東支鐵道ノ經營ハ名実共ニ東支鐵道庁ヲ本体トスヘキモノトス

(3)然レトモ過去ニ於テ東支鐵道ニ對シテハ日米兩國ヨリ少ナカラズ資金ヲ供給シ居レル關係モアリ又東支鐵道ノ世界交通路タルニ鑑ミ米國政府提議ノ通り支那政府ニ對シテハ支那ガ東支鐵道ノ經營ニツキ責任ヲ以テ

機密第三六六号

(八月十七日接受)

大正十一年八月十二日

在支那

特命全權公使 小幡 西吉(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

東支鐵道社債發行ニ関スル件

本件ニ関シ新借款團北京代表者内議ノ次第ハ八月七日附機密第三五七号拙信ニ依リ御承知ノ通りニ候処更ニ右ニ関シ当地正金銀行支店ヨリ頭取宛通信寫及送付候間御査閱相成度候也

(附屬書)

八月八日頭第拾卷ノ二二二号

北京支店內借款團事務室

小田切 萬壽之助

頭取 児玉 謙次殿

東支鐵道社債發行内議ニ関スル件

去ル二日当地露亞銀行代表者 Petihuguenin ノ請求ニ依リ日英仏米四國銀行代表者ハ香上銀行ニ於テ同人ト会見セシ処(在哈爾濱同銀行代表 de Hoyer 同伴出席)

七七九

其語ル所ニ拠レバ昨年五月当地ニ於テ開カレタル同社總會ニ於テ決定セラレタル同鐵道社債發行ノ件ハ其後支那政府ノ異見モアリテ未ダ之レヲ実行スル能ハザリシガ軌近ニ至リ各方面ノ故障モ漸次排除セラレタル形勢ヲ呈シ来ルニ付早晚之レヲ發行スルノ計画ヲ為スコトモナルベク而シテ其ノ実行ノ際ニハ同鐵道ノ定款ニ依リ露亜銀行之レヲ引受クベキモ同行單獨ノ力ニテハ勿論其成功ヲ期スル能ハス四國銀行(對支借款團ニ對ス)ノ好意的援助ヲ得テ始メテ其目的ヲ達スルヲ得ベキ旨ヲ述ベタル上尚ホ語ヲ繼ギ本日ノ會合ヲ請求セシ理由ハ他ニアラス右計画ヲ予メ四國銀行ニ内話シテ之ニ関スル研究考慮ヲ乞ヒ以テ募債ノ前途ヲ開拓セントスル精神ニ外ナラズト説明シ畢テ別紙算書ヲ各代表者ニ手交致候

席上 de Hoyer ハ昨年度ニ於ケル同鐵道ノ収支狀態ヲ略述セシモ其計數ハ募債ニ関スル研究ニ對シテ多大ノ利益ヲ与ヘザルモノト認メタルニ付茲ニハ之ヲ省略致候但シ同人ニ於テハ不遠右ニ関スル詳細ナル報告書ヲ提出スベキ旨ヲ約シタルニ付右入手ノ上ハ直チニ可及御転送候別紙算書ハ前記ノ意味ニテ交付ヲ受ケタル次第ニ付其御含ミヲ以

of the Railway and the international body called "The Technical Board" have at several times considered schemes as how to provide necessary funds but the Chinese Government has not so far given the approval to any of them.

The recent attempt to float 10% Gold Bonds of the Railway on the Chinese market helped to prove on the other hand the difficulty of finding investors in this country and the necessity therefore to come to an understanding with Foreign Banking Groups, concerning the floating of a Loan on Foreign markets.

The latest scheme suggested by the Russo-Asiatic Bank is to have a loan of one or two million pounds issued by the Consortium Banks, English, French, American, Japanese and by the Russo-Asiatic Bank?

The loan issued at 95 would bear interest at 7% and would be repayable in 20 years, drawings

テ御取扱相成候様致度御報告旁々此段申進候 敬具  
写 公使館、倫、紐、上、大、哈  
(別紙)

露亜銀行代表者提出算書

#### NOTE

#### on the International LOAN for The Chinese Eastern Railway.

At the general meeting of the Shareholders of the C. E. Rly held in 1920 it was proposed by the Sino-Russian Board of Directors and voted by the Shareholders that a loan should be raised by the Railway in order to pay old debts and to constitute a working capital for the service of the line.

A detailed survey of the financial conditions of the C. E. Rly in 1922 leaves no doubt as to the necessity of raising a loan of 8 to 10 millions Gold Dollars.

The Board of Directors, the General Manager

commencing after 5 years.

The commissions of the issuing Banks and the special commission of the Russo-Asiatic Bank are left to be decided later as well as the details of the issue. The commission of the Banks would probably be fixed at within the limits of 2½-3% free of all issuing costs and charges.

The security for the loan would be a priority on the receipts of the C. E. Rly, and a general mortgage on its properties.

It seems to be obvious that foreign investors in New York, London, Paris or Tokyo, little acquainted with the political constitution and commercial standing of the Chinese Eastern Railway, would hesitate to invest their money, unless adequate security could be given to them. Their governments, on the other hand, before encouraging the respective financial groups to tender such financial assistance, would desire to be satis-

fied on the point that the money thus given would be spent for desirable purposes and help to re-establish this Railway, which is the gateway to Siberia, on a healthy and prosperous foundation.

Taking these two points in consideration, the establishment of a financial Committee, exercising high control over the revenue and expenditure of the Railway, would seem to be the best means of giving the necessary guarantee to the public and to satisfy the natural desires of the interested governments.

The financial Committee will have an accountant appointed to the Railway in order to be fully acquainted with all accounts and assist in the supervision of same.

The financial Committee will in no way interfere with the technical and administrative functions of the Board of Directors and of the General Manager.

international loan for the Chinese Eastern Railway and to prepare the way for further negotiations between the Chinese Eastern Railway and the interested parties with the approval of the Chinese Government.

大正一 八月十六日 在本邦米國大使館  
内田外務大臣宛

聯合國鐵道國際協定廢止及日本鐵道撤兵後ノ東  
支鐵道問題ニ關スル件

No. 188

Tokyo, August 16, 1922

Excellency:

I am instructed by my Government to present to the Imperial Japanese Government the following proposals in respect of the Inter-Allied Railway Agreement of January, 1919, relating to the Chinese Eastern Railway.

The impending withdrawal of Japanese troops will definitely terminate the Inter-Allied Railway Agreement of January, 1919. The United States

Should the General Manager prove himself inferior to his post, the Board of Directors would propose his replacement at the general meeting of Shareholders.—

In conformity with the resolution at the Washington Conference, the Ministers of the interested Government in Peking could be empowered with the general watching over of the trusteeship of the Russian State's interests undertaken by the Chinese Government.

In making this proposition the Russo-Asiatic Bank has not the intention to force upon the Board of Directors of the Chinese Eastern Railway and scheme for the raising of the loan and the Board is entirely free to submit to the Chinese Government's approval any other proposal.—

The Bank is only willing to allow the representatives of the Foreign financial groups to approach their principals as to the possibility of an

values very highly the international cooperation which was brought about by that agreement and feels that the agreement should not be allowed to lapse without a common understanding being reached as to future action.

The stated purpose of the 1919 agreement was temporarily to operate the Chinese Eastern and Trans-Siberian Railways in the interests of the Russian people with a view to their ultimate return to those in interest without the impairing of any existing rights. The Governments of Japan and the United States and to some extent other governments have expended money and material in aid of the maintenance and operation of the railway. It is a matter of general concern that the railway should continue to exist as a free avenue of commerce and to be operated efficiently.

These considerations induced the representatives of the Powers other than China at the recent

Washington Conference to consider and support measures for a continued general supervision of the affairs of the Chinese Eastern Railway but China resting upon sovereign rights objected to the proposals made. The result was the adoption of the following resolution:

"One. Resolved That the preservation of the Chinese Eastern Railway for those in interest requires that better protection be given to the railway and the persons engaged in its operation and use and a more careful selection of personnel to secure efficiency of service and a more economical use of funds to prevent waste of the property. That the subject should immediately be dealt with through the proper diplomatic channels."

At the same time the Powers other than China adopted the following:

"Two. The Powers other than China in agreeing to the resolution regarding the Chinese Eastern

Railway reserve the right to insist hereafter upon the responsibility of China for performance or non-performance of the obligations towards the foreign stockholders, bondholders and creditors of the Chinese Eastern Railway which the Powers deem to result from the contracts under which the railway was built and the action of China thereunder and the obligations which they deem to be in the nature of a trust resulting from the exercise of power by the Chinese Government over the possession and administration of the railroad.

Having regard to the foregoing facts the Government of the United States desires to propose that the Powers concerned proceed in the near future to the winding up of the Inter-Allied Committee and the Technical Board created by the 1919 agreement and that the Powers other than China adopt a common course of action in that connection to-wit that these Powers should con-

firm the resolutions above quoted relating to China's responsibility that they should so far as there may be occasion reserve all rights with respect to advances in money or material made in aid of the railway; that they re-affirm their concern in the preservation of the railway its equipment operation and its maintenance as a free avenue of commerce open to the citizens of all countries without favor or discrimination; that they inform the Chinese Government that they purpose to continue to observe carefully the administration and operation of the railway and the manner in which China discharges the responsibilities which she has assumed; and that they apprise the Chinese Government at the same time of their entire good will and readiness to assist or cooperate at any time in any practicable way with a view to conserving the railway property and assuring efficient operation in the interest of all concerned.

My Government would be pleased to receive through me the consent of the Imperial Japanese Government to the putting into effect of these proposals and the assurance of the co-operation of the Imperial Japanese Government in carrying out the proposals concerning the future actions of the interested Powers relating to the Chinese Eastern Railway.

I avail myself of this opportunity to renew to Your Excellency the assurance of my highest consideration.

Charles B. Warren

His Excellency

Count Uchida,  
His Imperial Japanese Majesty's  
Minister for Foreign Affairs.

~~~~~  
六十二 八月十八日 在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

日本軍撤退後ノ東支鐵道ノ管理体制ニ関スル  
國公使ノ吉田ニ対スル内話報告ノ件

一九「シベリア」及東支兩鐵道管理ニ関スル件 六七三  
第五八一号 (八月十八日接受)

十六日吉田ヘノ仏国公使内話左ノ通

数日前米国公使来訪仏国政府ハ東支鐵道ニ利害關係アリヤト唐突ニ問ヒタルニ付自分ハ露亜銀行ノ關係上利害關係ヲ有スルハ勿論ノ事ナリト答ヘタルニ米国公使ハ何等言ヲ免セズ依テ自分ハ同公使ハ何等意見纏ラザルモノト判断セリ自分ノ考ニテハ日本軍撤退ノ晝技術委員會ハ消滅スベキニ付「プチチュゲナン」案(機密第三五七号拙信)ニ依リ同鐵道ヲ保全シ露国復活ノ節之ヲ同国ニ引渡スヲ以テ良策ト信ス云々

十七日前記「プ」氏ハ閣下宛哈爾濱電報第二四二号ニ関シ吉田ヲ来訪シ鐵道護衛兵今回ノ叛乱ハ上官ガ給料ヲ著服シタルニ基クモノナレバ急キ例ノ借款ヲ為シ鐵道ヲ整理シ秩序ヲ恢復スル必要アルニ付本日交通次長ニ力説シタルモ次長ハ能ク了解セズ取調置クベシナド答ヘテ埒明カズ又現在ノ技術委員會保存ニ熱心ナルハ米国側ノミニテ英國政府トテモ大局ノ政策上米国ニ追従スルノミニテ冷淡ノ様子ナリト語レリ尚ホ同氏ハ東支鐵道沿線擾乱ノ模様ニ依リテハ日本軍ノ撤退ニ影響スルコトナカルベキヤト尋ネタルニ付吉

「ド、ホイヤー」ニ対シ東支鐵道問題ニ関シ華府會議ニ於テ成立セル決議ニ対スル貴見如何ト尋ネタルニ「ド、ホイヤー」ハ右ハ何ノ価値モナキモノナリトテ頗ル冷笑的ノ態度ヲ示セリ

六七四 八月二十二日 内田外務大臣ヨリ  
在本邦米国大使宛

### 聯合國鐵道監督協定廢止及東支鐵道問題ニ関

#### シ回答ノ件

機密第一一五号

以書翰致啓上候陳者一九一九年一月ノ聯合國鐵道監督協約廢止並ニ右ニ関連シ東支鐵道ニ付關係列国ノ執ルヘキ共同措置方ニ関スル米国政府ノ提議貴国政府ノ命ニ依リ八月十六日附貴翰ヲ以テ御通告越相成委細敬承致候右米国政府提議ニ対シ帝國政府ハ左ノ通回答スルノ榮光ヲ有シ候  
日本国政府ハ米国政府カ右提議冒頭ニ於テ近ク実行セラルヘキ日本軍隊ノ撤退ニヨリ一九一九年一月ノ聯合國鐵道協約ハ決定のニ終止セラルヘキ処米國ハ該協約ニ依リ生シタル國際協力ノ価値大ナルヲ認メ将来ノ措置ニ関シ一致ノ諒解ニ達スルコトナクシテ該協定ヲ終了セシムヘカラサルヲ

一九「シベリア」及東支兩鐵道管理ニ関スル件 六七四

七八六  
田ハ右影響ナシト信ズト答置キタル由ナリ

六七三 八月十九日 芳沢亜細亞局長  
ド、ホイヤー露亜銀行代表 會談

### 東支鐵道借款問題ニ関シ日本側ノ援助要請ノ

#### 件

東支鐵道問題ニ関スル芳沢局長及下、ホイヤー間會談要領

八月十九日記(村井印)

数日前「ド、ホイヤー」芳沢局長ヲ来訪シ露亜銀行側ハ東支鐵道借款問題ニ関シ北京政府並北京外交団トモ屢々折衝セルモ殆ト埒明カザルニ付此際日本政府ニ於テ卒先シテ東支鐵道ニ財政援助ヲ与ヘラルル様斡旋願ハレマジク哉ト語リタルヲ以テ芳沢局長ハ全然一己ノ私見ナル旨ヲ前提トシ近ク日本ハ西比利亞並北滿ヨリ撤兵スルコトナリ之ニ関連シ目下技術部廢止問題モ起リ居ル際ナレバ此際東支財政援助問題ヲ持チ出スハ時機ヲ得タルモノニアラズ寧ロ撤兵完了シ技術部ノ廢止問題モ片付キタル後本問題ヲ持チ出ス方得策ナリト思考ス何レニモセヨ日本政府ハ從來ノ通列国協調ノ主義ヲ守ル方針ナルニ付日本单独ニテ行動スル能ハザルコトハ承知シ置カレタシト回答セリ次テ芳沢局長ハ

感ストノ所見ヲ開陳セラレタルニ對シ全然同感ノ意ヲ表スルモノニ有之候一九一九年東支及シベリア鐵道監督協約ノ目的カ東支及西比利亞橫斷鐵道ヲ露西亞國民ノ利益ノ為一時運用スルニアリタルハ米国政府カ右提議中ニ説述セラレタル通りニシテ又支那カ東支鐵道ニ関シ如何ナル權利ヲ行使スルニ拘ラス其ハ信託ノ性質ヲ有スルモノニシテ從ッテ支那ハ該信託ヨリ發生スル義務ノ履行若ハ不履行ニ對シ責任ヲ負フヘキコトニ付最近華盛頓會議ニ於テ支那以外ノ諸國間ニ見解ノ一致アリタル次第ハ前頭提議中ニ引用セラレタル決議ニ徴シ明瞭ニ有之候此了解ノ下ニ帝國政府ハ米国政府今回ノ提議即チ關係列国ハ一九一九年協約ニ依リ創設セラレタル聯合國委員會及技術部ヲ近キ将来ニ於テ閉鎖スルノ措置ヲ取ラムコト及支那国以外ノ諸國ハ此關係ニ於テ一致ノ方針ヲ採リ(一)支那ノ責任ニ関スル前記決議ヲ確認スルコト(二)該鐵道援助ノ為ニシタル金錢及材料ノ貸付ニ関スル一切ノ權利ハ須要ニ応シ之ヲ留保スヘキコト(三)該鐵道ノ設備、保全、運用及各國民ニ對シ無差別ニ開放セラルル商業上ノ自由通路トシテ該鐵道ノ維持セラルルコトニ付列国ハ利害關係ヲ有スル旨重テ確認スルコト並ニ(四)該鐵道ノ經

七八七



營運用及支那國カ引受ケタル責任ノ履行方法ニ付引続キ注視スヘキ旨ヲ支那國政府ニ通告スルコト及(五)右ト同時ニ列國ハ利害關係者全体ノ為メ鐵道財産ヲ保全シ有効ナル運用ヲ確保スル為メ実行シ得ヘキ方法ニヨリ何時ニテモ東支鐵道ニ對シ援助又ハ協力ヲ辭セサルヘキ旨支那國政府ニ通告スルコトニ賛同致候

尚日本政府ハ過去ニ於テ東支鐵道ニ對シテハ其世界商業ノ自由通路トシテ維持セラレンカ為メ日米兩國ヨリ少カラス資金ヲ供給シ居レルヲ以テ其経営狀態ノ監視ヲ続行スルノ必要ヲ認ムルモノニシテ將來東支鐵道ニ對シ財政若ハ其他ノ援助又ハ協力ヲ与フヘキ機會アル場合ニハ何時ニテモ關係諸國ハ過去三年間本問題ニ付日米兩政府間ノ協力ノ特徴タリシ協議協調ノ精神ニヨリテ行動セシコト希望ニ堪ヘシ

候  
此段回答申進旁々本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ  
候 敬具

(片栗監本)

Department of Foreign Affairs,

Tokio, August 22nd, 1922.

Monsieur l'Ambassadeur,

I have the honour to acknowledge the receipt of Your Excellency's Note of the 16th instant, making proposals, in accordance with the instruction of the Government of the United States, in respect of the Inter-Allied Railway Agreement of January 1919, relating to the Chinese Eastern Railway.

I beg to state in reply that the Japanese Government are happy to share the view expressed in the opening part of the Note that the impending withdrawal of Japanese troops will definitely terminate the Inter-Allied Railway Agreement of January 1919, and that the United States appreciating highly the international cooperation which was brought about by that agreement, feels that it should not be allowed to lapse without a common understanding being reached as to future action.

The purpose of the 1919 Agreement was, as

stated in the above mentioned Note, to operate temporarily the Chinese Eastern and the Trans-Siberian Railways in the interest of the Russian people. It is also clear from the resolution quoted in the said Note that the Powers other than China at the recent Washington Conference are united in the view that whatever power China may exercise in connection with the Chinese Eastern Railway it is in the nature of a trust and consequently China is responsible for performance or nonperformance of the obligations resulting from such trusteeship. With such understanding the Japanese Government are prepared to join the proposals made by the Government of the United States that the Powers concerned proceed in the near future to the winding up of the Inter-Allied Committee and the Technical Board created by the 1919 Agreement, and that the Powers other than China adopt a common course of action in

that connection, to wit: (1) that these Powers should confirm the resolutions above referred to, relating to China's responsibility; (2) that they should so far as there may be occasion reserve all rights with respect to advances in money or material made in aid of the railway; (3) that they re-affirm their concern in the equipment, preservation of the railway, its operation and its maintenance as a free avenue of commerce open to citizens of all countries without favour or discrimination; (4) that they inform the Chinese Government that they purpose to continue to observe carefully the administration and operation of the railway and the manner in which China discharges responsibilities which she has assumed; (5) that they apprise the Chinese Government at the same time of their entire good will and readiness to assist or cooperate at any time in any practicable way with a view to conserving the

railway property and assuring efficient operation in the interest of all concerned.

Further it may be added that, the Japanese Government, recognizing advisability of keeping a continued watch over the management of the Chinese Eastern Railway, for which both the Japanese and American Government have in the past supplied no small amount of fund in order that it be kept as a free avenue of the world's commerce, hope that whenever there arises occasion for lending financial or other assistance or cooperation to the Chinese Eastern Railway, the Powers concerned will be guided in their action by the spirit of mutual consultation and accord, which for the last three years has so happily marked the co-operation of the Japanese and American Government in this matter.

I avail myself of this opportunity to renew to Your Excellency, Monsieur l'Ambassadeur, the

大正十一年八月二十八日

六七六 八月二十九日 在本邦米國大使館ヨリ  
日本外務省宛

連合國ノ鐵道監理協定ノ廢止ニ関スル日米兩國  
間往復文書ノ公表方申入ニ対シ回答ノ件

MEMORANDUM

The American Embassy has the honor to acknowledge the receipt of the Memorandum of August 28, 1922, of the Imperial Japanese Foreign Office regarding the matter of the publication of the Ambassador's note of August 16th and the reply of the Imperial Japanese Government thereto dated August 22nd concerning the termination of the Inter - Allied Railway Agreement of 1919 and the question of the Chinese Eastern Railway.

The Embassy has not been advised by Washington of the publication of the notes in question but, provided the Imperial Japanese Foreign Office is assured that such publication has taken place,

assurance of my highest consideration.

(Signed) Count Yasuya Uchida,  
Minister for Foreign Affairs.

His Excellency Charles B. Warren,

Ambassador Extraordinary and Plenipotentiary  
of the United States of America.

六七五 八月二十八日 日本外務省ヨリ  
在本邦米國大使館宛

連合國ノ鐵道管理協定廢止ニ関スル日米兩國  
間往復文書ノ公表方ニ付申入ノ件

覚書

華盛頓發合同通信ニ依レハ米國政府ハ一九一九年聯合國管理協約廢止並ニ東支鐵道問題ニ関スル交渉内容ヲ公表セラレタル由ナルガ帝國政府ニ於テモ本件ニ関シ世上ニ流布スル種々ノ誤解ヲ一掃スル為本件ニ関スル八月十六日附米國大使書束及右ニ対スル八月二十二日附帝國政府回答ノ内容ヲ公表シ度キニ付右ニ対シ米國大使ニ於テ御同意アラムコトヲ希望ス

the Ambassador has no objection to the same publication being made in Japan.

To the

Imperial Japanese Foreign Office,

Tokyo.

(欄外註記)

「米國大使館書記官リチャードソン持参

尚本件ニ付直ニ本國政府ニ發電日本政府ノ希望ヲ伝ヘ意圖問合ハスベキ旨述ベタリ八月二十九日(重光)」

六七七 八月三十一日 在本邦米國大使館ヨリ  
日本外務省宛

連合國ノ鐵道監理協定ノ廢止ニ関スル日米兩國  
間往復文書公表方申入ニ対シ再回答ノ件

(九月一日接受)

Tokyo, August 31, 1922.

MEMORANDUM

In further reference to the memorandum of the Imperial Japanese Foreign Office dated August 28, 1922, regarding the matter of the publi-

cation of certain correspondence concerning the termination of the Inter-Allied Railway Agreement of 1919, the American Embassy has the honor to inform the Imperial Japanese Foreign Office that an urgent telegram has been received from Washington to the effect that the State Department has given out nothing to the Press in this connection and that it would deprecate such publicity before replies had been received from France and Italy. If favorable replies are received, the Government of the United States contemplates proposing a date for the presentation of identical notes at Peking and suggesting that publicity be given to the matter on that date in the various capitals.

Tokyo, August 31, 1922.

To the

Imperial Japanese Foreign Office,  
Tokyo.

六七八 九月五日

内田外務大臣ヨリ  
在米國佐分利臨時代理大使宛(電報)

六月二十七日成立ノ東支南滿兩鐵道間運賃協

定ノ大要ニ付通報ノ件

第四九二号

本年六月二十七日東支南滿兩鐵道間ニ成立シ七月一日ヨリ實施セル運賃協定ニ関シ種々ノ中傷の報道流布セラレ居ル模様ニ付御参考迄本件大要左ニ申進ス適宜利用アリ度シ由來東支鐵道ノ運賃ハ同鐵道カ西比利亞鐵道ノ一部トシテ經營セラレタル時代ノ運賃政策即チ浦潮繁榮ヲ主眼トセル政策ヲ其儘踏襲セルモノニシテ東行運賃率ト南行運賃率ニ多大ノ懸隔アル等幾多ノ不合理不自然アリ為ニ北滿輪出業者ニ不便不利ヲ与フルコト尠カラス滿鉄ニ於テハ夙ニ之カ改正ヲ希望シ居タルモ諸種ノ事情ニ依リ東支側ニ於テ右滿鉄側ノ希望ヲ容ルルニ至ラス依テ滿鉄側ニ於テハ昨年以来東支側ト協定ノ上東支南滿連絡貨物中大豆、豆粕、豆油、小麦及麥粉ニ対シ特定割引運賃ヲ適用シ之カ調節ヲ図リ來レル処今次協議ノ結果大体左ノ通り協定ヲ見タリ

一、右滿鉄割引特定運賃ヲ廢止ス

二、東支鐵道ハ前記五品ニ付左ノ通運賃ヲ改正ス

(イ)南部線ニ於テ南行及北行ニ対シ均一運賃率ヲ適用ス  
(ロ)東行及南行運賃ノ均衡ヲ計ル為東行運賃ニ対シ一噸ニ付一円二十二錢ヨリ少カラサル額ノ引上ヲ行フ  
(ハ)松花江ノ河豆ニ対シ哈爾濱ヨリ浦潮、大連、營口及安東ニ至ル船車連絡直通特定運賃ヲ設定シ其ノ神戸ニ於ケルC、I、Fヲ均一ナラシム

(ニ)哈爾濱以遠東支各駅ヨリ大連、營口及安東着南下貨物ニ対シ前記(イ)(ロ)二項ノ主義ニ反セサル範圍内ニ於テ一噸ニ付金四円三十一錢ノ運賃割引ヲ行フ但シ其内三円五十五錢ハ滿鉄ヨリ東支ニ割戻ヲ為ス(右割戻額ハ一ケ年約三百万円ニ達スル処東支側目下ノ窮乏ニ鑑ミ其希望ヲ容レ滿鉄側ヨリ百万円ヲ前渡スルコトトセリ之カ最モ世間ノ疑惑ヲ醸セル原因ナルカ如シ)

本協定ノ期限ハ明年八月三十一日迄ナリ以上之ヲ要スルニ本協定ハ単ナル兩鐵道間ノ運賃協定ニシテ何等特殊ノ意味ヲ有スルモノニアラス尚本件協定ハ予メ技術部ニ諮ラサリシ為成立後同部ニ之ヲ附議スヘキヤ否ヤニ関シ問題ヲ生シタリ我方ニ於テハ強ヒテ其附議ヲ拒マサリシ次第ナルカ其間我委員ヨリ他國委員ニ本件協定ノ内容ヲ説明シテ其ノ諒

解ヲ得結局技術部ハ本協定ハ同部ニ相談ナクシテ実行セラレタルモノナレハ其ノ結果ニ対シ責任ヲ負ハサル旨ヲ決議シタルモ其後何等問題ヲ生セス現ニ今日已ニ實施セラレ居レリ御含迄

在英大使ヘ転電シ在歐各大使ヘ郵送セシメラレタシ

六七九 九月八日

在本邦中國臨時代理公使ヨリ  
内田外務大臣宛

東支鐵道ノ技術部改廢問題ニ付中國政府ノ意

向表明ノ件

外王字第六二号

(九月十四日接受)

敬啓者茲奉本國外交部電開美日密議改組東路技術部一節關係該路主權極鉅希向日本政府切實聲明東路問題各國如有私相接洽中國事前並未与聞臨時始提出組織已成之弁法強令加入我決不承認等語相應函請  
查照即希見復為荷茲本大使對於  
貴大臣特表敬意謹具

中華民國十一年九月八日

中華民國代理公使 江 洪 杰 (印)

日本外務大臣伯爵 内田 康哉閣下

一九「シベリア」及東支兩鐵道管理ニ関スル件 六八〇

(右和訳文) (註 外務省係官ニ於テ作成セル仮訳文ナリ)

九月八日附内田外務大臣宛在本邦支那代理公使來東訳文

以書翰致啓上候陳者今般本国外交部ヨリ日米間ニテ東支鐵道技術部ノ組織改正ニ付密議シタル由ナルカ本件ハ該鐵道ニ関スル支那ノ主權ニ關係スルコト極メテ大ナルヲ以テ各國ニ於テ東支鐵道問題ニ付私ニ交渉スルコトアルモ支那ニシテ事前ニ与リ聞カサルニ於テハ已ニ組織シタル処分法ヲ臨時提出シテ加入ヲ強ユルモ我國ハ決シテ承認セサル旨日本政府ニ対シ切実ニ声明スヘキ旨電命ニ接シ候依テ右及通牒候間何分ノ儀御回答相煩シ度此段御照会申進旁々本代理公使ハ玆ニ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

六八〇 九月十六日 在ハルビン山内總領事ヨリ  
内田外務大臣宛

蒙古及東支鐵道問題等ニ関シ中ソ間ニ北京會議開催セラルヘシトノ報道ニ付報告ノ件

機密第一一九号

大正十一年九月十六日

在哈爾濱

提唱スヘキ意向ナリト

右ニ関シ現長官「オストロウモフ」ハ會議開催ヲ否認シテ曰ク政治問題ノ解決ハ支那政府及露亜銀行ノ權能ニ屬ス露亜銀行ニ於テ莫斯科案ヲ討議セルカ幹部ノ意向兩派ニ分レタリ露国委員ノ一部ハ莫斯科案ニ同意ヲ唱ヘ他ノ一部ハ仏国委員ト共ニ會議開催ニ反対セルヲ以テ決議ヲ見ルニ至ラサリシカ恐ラク其決定ハ目下尚何レトモ其意向ヲ表明セサル仏国政府ノ立場如何ニ關係ス云々ト

前記ノ報道ハ「サリヤ」紙カ何レヨリ得タルモノナリヤ明白ナラサレトモ最近同紙ノ通信員カ長春ニアリテ常ニ敏活ナル報道ヲ寄セツアルニ鑑ミ在同地「ヨッフエ」一行ヨリ聞込タルニ非サヤト推察セラレ候右参考迄ニ及報告候

敬具

本信写送付先 在支公使、奉天總領事、長春領事

六八一 九月十六日 在浦潮堀政務部長ヨリ  
在長春松平代表宛(電報)

スチーヴンスノチタ出張ニ関シ鐵道委員會議

長力チェンコノ談話報告及請訓ノ件

第二二二号 (九月十七日接受)

一九「シベリア」及東支兩鐵道管理ニ関スル件 六八一

七九四

總領事 山内 四郎(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

東支鐵道ニ関スル北京會議開催ノ件

当地發刊「サリヤ」其他ノ所報ヲ綜合スルニ長春會議終了後北京ニ於テ蒙古問題並ニ東支鐵道等ニ関シ莫斯科及北京政府代表者間ニ會議開催セラルヘシ然シテ「ヨッフエ」ハ既ニ東支鐵道ニ関スル北京政府トノ會議開催ニ関シ莫斯科政府ノ同意ヲ得タル旨北京政府ニ通告セリト云フ同會議ハ東支幹線カ實際何人ノ所有ニ屬スルヤ並ニ之ニ關連スル諸問題ヲ討議スヘシト

右ニ関スル「ソウエート」露国側ノ腹案ハ東支鐵道ノ最高幹部ニ兩國政府ヨリ各三名宛ノ代表者ヲ出シ共同委員會ヲ設置スルコト又鐵道保護モ兩國政府ノ共同軍隊ニテ之ニ當リ兩國政府ノ軍隊並ニ軍需品ハ半額ノ運賃ニテ輸送スルコト尚「ソウエート」政府ハ其代表者トシテ前東支鐵道副總裁「ウエンチリ」並ニ前商業部長「ラザレフ」ヲ派遣スル予定ナリ右兩氏ハ「ヨッフエ」代表ト共ニ北京會議ニモ参加スヘシ尚又莫斯科政府ハ「ウエンチリ」カ副總裁タルノ權利ヲ保持シ居リテ再ヒ其職務ヲ執行スヘキ旨北京會議ニ

本官發外務大臣宛電報第一六七号

九月八日ノ当地鐵道委員會例会ニ於テ議長「カチエンコ」氏ハ哈爾濱新聞紙上ニ技術部長「スチーヴンス」氏カ同月八日齊多ニ向ケ出發シタリトノ記事アルコトヲ述ベ同氏今回ノ齊多行ハ聯合國管理權内ニアル鐵道及滿洲里以西ニアル鐵道間ノ關係ニ付何等カノ協定ヲ遂ケムトスルモノニアラズヤト思考セラルルニ付昨年七月及八月中ノ先例モアルコトナリ委員會トシテ右ニ関スル交渉ノ有無及内容ヲ問合セ置度ト提議シ全員一致シテ可決シタル処今回議長ハ九月十五日附ヲ以テ各委員宛同文通牒ヲ發シ技術部ヨリハ当方ヨリノ九月八日附照会ニ対シ今以テ何等ノ回答ニ接セザルガ他ヨリ相當確實ノ情報ヲ入手スルニ於テハ自分ハ露国委員トシテ何等カノ態度ニ出ヅルコトトスヘク又右回答ヲ得ザル内ハ「スチーヴンス」氏今回ノ旅行ヨリ發生スヘキコトアルベキ一切ノ責務ニ対シ委員會ニ於ケル露国委員及烏蘇里鐵道庁ノ自由ヲ留保スル權利アル旨言明シ來レリ

右通牒ハ「カチエンコ」氏カ「ス」氏今回ノ行動ノ結果当地委員會ノ存在ヲ無視スルコトナルヘキヤヲ憂ヘ或ハ当地政權、交通官庁乃至烏蘇里鐵道庁ニ一種ノ脅威圧迫ヲ來

七九五

スヘキコトナキヤヲ恐レ委員會ノ議長当地政權交通大臣及  
烏蘇里鐵道長官トシテ憂慮ノ余リ發シタルモノト思考セラ  
ルル処之ニ對シ本官ノ執ルヘキ態度ニ付心得置クヘキコト  
モアラバ何分ノ儀御指示ヲ請フ

六八二 九月十七日 在中國小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛

東支鐵道技術委員會ノ存続問題ニ関シ率先發  
議セザル旨仏国公使ノ吉田ヘノ内話報告ノ件  
機密第四二二号 (九月二十五日接受)

大正十一年九月十七日

在支那

特命全權公使 小幡 西吉(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

東支鐵道技術委員會ノ存続ニ関スル仏国公使内話ノ件  
過日来風邪ノ氣味ニテ引籠中ナリシ仏国公使 Monsieur  
A. de Fleurian ノ求ニ依リ吉田參事官同公使ヲ昨十六日  
往訪シタル処同公使ハ左ノ通り内話致候趣ニ有之候

日本軍隊ハ東支鐵道沿線ヨリ既ニ撤退シタル趣報告ニ接  
シタリ仏国政府ハ歐洲關係ノ諸問題ニ多忙ナルカ為支那

第二三〇号

(十月七日接受)

十月六日ノ鐵道委員會ニ於テ委員會終了ノ手續ニ関スル協  
議アリ本官ハ委員會トシテ何等ノ措置ヲ執ラズトモ日本軍  
撤退ト共ニ規定ニ依リ自動的消滅スベク又強テ希望セバ二  
十日ノ會議ニ於テ之ヲ最終ノ會議トスル旨ヲ決議シ置クモ  
可ナラント述ベタルモ英國委員ノ發言ニテ多数ノ委員ハ日  
本軍撤退ノ事實終了シタル上更ニ一回集合シ簡單ニ委員會  
終結ノ決議ヲ為シ記録ニ留ムルノ必要ヲ主張シタルニ付本  
官モ強テ固執セズ結局右会合ヲ見ルベキガ当日ハ外ニ格段  
ノ用向モナキニ付本官ハ予定ノ通引揚ゲ日本側ヨリハ何人  
モ出席ヲ見ザルコトトナルベシ為念

(附記)

大正十一年十月六日關係各省間協議ノ件

協議会開催ノ場所 鐵道大臣官邸

出席者 外務、鐵道、大藏、陸軍ノ四省係官

西比利亞鐵道管理協定廃止ニ関スル善後方法協定事項

一、援助資金ノ処理方法

(a) 關係諸國間ニ協定シタル日本出資額八百万円以外ニ帝

国政府カ派遣員経費トシテ支出シタル約百九十万円ハ

一九「シベリア」及東支兩鐵道管理ニ関スル件 六八三

問題ハ大体ニ於テ自分ニ一任シアリ故ニ自分モ亦成ルヘ  
ク仏国政府ヲ煩ハササル考ナリ技術委員會ハ理論上日本  
軍隊ノ撤退ニヨリ其ノ存続ノ理由ヲ喪失スル次第ナルモ  
前陳ノ次第ニ付自分ハ何等「イニシアチヴ」ヲ採ラサ  
ル考ナリ從テ自分ノ指揮命令ノ下ニ在ル同委員會仏国委  
員ニモ此旨説明シ置ケリ  
Monsieur Petithuguenin ヨリ支那政府其他ニ勸説シ  
タル考案(本年八月七日附機密第三五七号)ニ對シテハ  
支那政府ヨリ未タ何等挨拶セサルニ付支那カ東支鐵道保  
護ニ関シ如何ナル措置ヲ採ル考ナルカハ不明ナルモ關係  
國間ニ於テ領事ニ非サル者ヲ以テ一委員會ヲ組織スルコ  
トトセハ可ナランカトモ思ハル兎ニ角自分ハ本問題ニ関  
シ何等率先發議セサルヘキニ付右承知置キアリタシ云々  
此段報告申進候也

六八三 十月七日 在浦潮堀政務部長ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

連合國ノ鐵道管理委員會ノ終了手續ニ関スル

討議報告ノ件

附記 十月六日關係各省間協議ノ件

鐵道委員會ニ對シ未通告ノ儘ナル処右ニ就テハ書類其  
他ヲ調査シタル上技術部等ノ解散前可成速ニ技術部長  
ニ通告シ鐵道委員會ノ承認ヲ求ムルコトトスヘシ  
(b) 通告済ニ係ル百參拾万円ノ明細書ニハ鐵道特別會計ニ  
於テ負担シタル判任官以下ノ俸給々料賞与ヲモ可成計  
上スルコト  
(c) 八百万円ノ内六百七十万円ハ技術部長ニ其支払方ヲ委  
任セル關係上費途内訳不明ナルカ此際東支鐵道、西比  
利亞鐵道、烏蘇里鐵道ニ分チ其費途ヲ明ニシ置クコト  
必要ナルニ付技術部長ニ對シ決算報告方ヲ要求スルコ  
トトス

二、技術部員及現場監督員ノ引揚時期及方法

右職員ハ協約消滅後殘務処理ニ要スルモノノ外直ニ内地  
ニ帰還セシムル様命令スルコト

三、臨時事件費及臨時軍事費ヲ以テ購入シタル土地家屋、  
諸調度物品ノ処分方法

右土地家屋ハ前記(b)ノ明細書中ニ記入スルコトトス

四、鐵道委員會及技術部ノ書類

前記諸機關ノ解散前議事録其他ノ書類ニ付鐵道委員會議

七九七

長、技術部長又ハ書記長ノ署名アル副本ヲ關係各國政府ニ送致セシムルコト必要ナリ

五、輸送料金問題

軍事輸送料金支払残額アル処援助資金ニ対スル担保ナシテ之ヲ未払ノ儘各國政府ニ留保シ置クハキヤ否ヤ鐵道委員會ニ附議スルヲ可トス

六八四 十月十六日

在本邦米國大使ヨリ  
内田外務大臣宛

聯合國ノ鐵道監理協定ノ廢止ニ関シ仏國政府ヨリ同義ノ返回答フリンニ付案ナキ共同措置  
置フ提案ノ件 (十月二十四日接収)

Tokyo, October 16, 1922.

No. 228

Excellency:

I am instructed by my Government to inform Your Excellency that the French Government has now given formal adherence to the proposals contained in my note of August 16, 1922, No. 188, concerning the termination of the Allied supervision

of the Chinese Eastern Railway. I have the honor further to inform Your Excellency that no reply has yet been received from Italy but it is felt that final arrangement cannot longer be delayed in view of the impending completion of the evacuation of the Siberian mainland.

The following common course of action accordingly is proposed.

(1) Each Government to instruct forthwith its representatives on the Inter-Allied Committee and Technical Board to wind up those organizations on October 31 next or as soon thereafter as possible and to withdraw all foreign railway experts appointed under the 1919 Agreement.

(2) Each Government to instruct its diplomatic representative at Peking to present to the Chinese Foreign Office on October 31 a note in the sense outlined in my note of August 16, 1922. These notes to be similar in purport but not nec-

essarily identical, and

(3) To give publicity to the foregoing action at the respective capitals on the same day.

If before October 31 a favorable reply is received from Italy that Government will of course be asked to join in the same course of action. If, however, a reply to the original proposal has not been received from Italy by the time that a general agreement has been reached, the Italian Government will be apprised of the decision of the other four Powers to act in any event on October 31st.

I avail myself of this opportunity to renew to Your Excellency the assurance of my highest consideration.

Charles B. Warren

His Excellency

Count Uchida,

His Imperial Japanese Majesty's

一九「シベリア」及東支兩鐵道管理ニ関スル件 六八五

Minister for Foreign Affairs,

etc., etc, etc.

六八五 十月二十四日  
内田外務大臣ヨリ  
在本邦米國大使宛

聯合國ノ鐵道監理協定ノ廢止ニ伴フ共同措置  
ニ関スル提案ニ異議ナキ旨回答ノ件

匪一機密第一四五号

以書東致啓上候陳者連合國鐵道監督協定廢止ノ件ニ関シ十月十六日附貴東ヲ以テ御申越ノ趣敬承致候帝國政府ハ右貴東御申出ノ提議即チ

(一)各國政府ハ其ノ連合國委員會及技術部代表者ニ対シ十月三十一日若ハ其ノ後成ルヘク速ニ之等機關ノ終結方並ニ本件協定ノ下ニ任命セラレタル外國専門家ノ召還方ヲ訓令スルコト

(二)各國政府ハ其ノ在北京外交代表者ニ対シ十月三十一日ヲ以テ一九二二年八月十六日附貴東所述ノ趣旨ニ依リ支那外交部ニ公文ヲ送致スヘキコトヲ訓令スルコト、之等公文ハ必スシモ同文ナルヲ要セサルモ同一趣旨ヲ以テスルコト

(三)同日各国首府ニ於テ前記ノ措置ヲ公表スルコト  
ニ何等異議無之即チ本月十六日閣下ニ手交シタル覚書記載  
ノ事項ニシテ右三項ノ何レカニ抵触スルモノハ後者ノ通り  
修正セラレ其他ノ事項ハ今回ノ貴信記載ノ事項ヲ補足スル  
モノト致度候ニ付右様御諒承相成度候  
右回答申進旁々本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候  
敬具

(片紙脇付)

No. 145

Department of Foreign Affairs,  
Tokio, October 24, 1922.

Monsieur l'Ambassadeur,

I have the honour to acknowledge the receipt  
of Your Excellency's note No. 228 under the date  
of October 16, 1922, relative to the proposals con-  
cerning the termination of the Allied Agreement  
of 1919 for the supervision of the Chinese Eastern  
and the Trans-Siberian Railways.

I beg to state in reply that the Imperial Gov-  
ernment have no objection to the proposals con-

as they can be made compatible with, the Ameri-  
can proposals above referred to.

I avail myself of this opportunity to renew to  
Your Excellency the assurance of my highest con-  
sideration.

Signed: Count Yasuya Uchida,  
Minister for Foreign Affairs.

六八六 十月三十日 在本邦米國大使ヨリ  
内田外務大臣宛

連合國ノ東支鐵道管理協定ノ終結ニ関シ米國  
政府ヨリ中國政府ニ手付スベキ公文ヲ送付  
越ノ件

Tokyo, October 30, 1922.

No. 238

Excellency:

I have the honor of enclosing for your con-  
fidential information a copy of the note my Gov-  
ernment will deliver to the Chinese Government  
on the 31st day of October in pursuance of the

tained in your note, namely,

(1) Each Government to instruct its represent-  
atives on the Inter-Allied Committee and Tech-  
nical Board to wind up those Organisations on Oc-  
tober 31, 1922 or as soon thereafter as possible  
and to withdraw all foreign railway experts ap-  
pointed under the 1919 Agreement.

(2) Each Government to instruct its diplomati-  
c representative at Peking to present to the  
Chinese Foreign Office on October 31 a note in the  
sense outlined in your note of August 16, 1922.  
These notes to be similar in purport but not nec-  
essarily identical.

(3) To give publicity to the foregoing action at  
the respective capitals on the same day.

I beg to state in addition that the Japanese  
Government desire that the points contained in  
the memorandum, which I handed to you on Oc-  
tober 16, be deemed supplementary to, in so far

recent agreement concerning the winding up of  
the organizations created under the Inter-Allied  
Agreement of 1919.

I avail myself of this opportunity to renew to  
Your Excellency the assurance of my highest con-  
sideration.

Signed: Charles B. Warren  
His Excellency  
Count Uchida,

His Imperial Japanese Majesty's  
Minister for Foreign Affairs.

(欄外註記)

「十一'十'三十日米大使米談手交(内田外相印)」

MEMORANDUM.

I have the honor to inform you, by direction  
of my Government, that in view of the final with-  
drawal from the Siberian mainland of Allied  
troops, the representatives of the United States  
on the Inter-Allied Committee at Vladivostok and

the Technical Board at Harbin have been instructed to proceed, in concert with their colleagues on those bodies, to the winding up of the affairs of each organization and the termination today of further activity.

In conveying this information to the Government of China I am directed to say that the United States confirms the resolutions with respect to the Chinese Eastern Railway adopted by the nine Powers at the Washington Conference which resolutions are:

"Resolved, that the preservation of the Chinese Eastern Railway for those in interest requires that better protection be given to the railway and the persons engaged in its operation and use, a more careful selection of personnel to secure efficiency of service, and a more economical use of funds to prevent waste of the property. That the subject should immediately be dealt with through the

proper diplomatic channels."

"The Powers other than China in agreeing to the resolution regarding the Chinese Eastern Railway, reserve the right to insist hereafter upon the responsibility of China for performance or non-performance of the obligations towards the foreign stockholders, bondholders and creditors of the Chinese Eastern Railway Company which the Powers deem to result from the contracts under which the railway was built and the action of China thereunder and the obligations which they deem to be in the nature of a trust resulting from the exercise of power by the Chinese Government over the possession and administration of the railroad."

With special reference to the second resolution the United States reserves to itself all rights including those with respect to advances in money and material which have been made by it in aid

of the Chinese Eastern Railway, either directly or through the medium of the Inter-Allied Committee or the Technical Board.

The Government of the United States takes this occasion also to reaffirm its concern in the preservation of the Chinese Eastern Railway with a view to its ultimate return to those in interest without the impairing of any existing rights, as well as its continued interest in the efficient operation of the railway and its maintenance as a free avenue of commerce open to the citizens of all countries without favor or discrimination.

Having regard to its concern in these matters and to the important contributions which it has made to the maintenance and operation of the railway during the past four years, both materially and through the services of the distinguished American engineer Mr. John F. Stevens and his assistants, the Government of the United

States will not fail to continue to observe carefully the administration and operation of the railway and the manner in which the Government of China discharges the obligations which it has assumed.

At the same time the Government of the United States desires to assure the Chinese Government of its friendly interest and good will and its readiness to assist or cooperate with the Government of China and the other Powers concerned at any time in any practicable way with a view to conserving the railway and assuring its efficient operation in the interest of all concerned.

Tokyo, October 30, 1922.

To the  
Imperial Japanese Department of  
Foreign Affairs

大正十一年一月一日 外務省公表



一九「シベリア」及東支兩鐵道管理ニ関スル件 六八八

東支及西伯利橫斷鐵道連合國監督事務終了並

對華申入ノ件

西伯利駐屯ノ帝國軍隊ハ本年十月二十五日ヲ以テ撤退ヲ完了セルヲ以テ千九百十九年一月ノ東支及西伯利橫斷鐵道連合國監督協約第五項ノ規定ニ鑑ミ帝國政府ハ他關係國政府ト協議ヲ遂ゲ在浦潮聯合國委員會及在哈爾濱技術部ノ帝國代表者ニ對シ此等機關ノ終了事務ヲ急ギ十月三十一日迄ニ其ノ完結方並右協約ノ下ニ任命セラレタル我專門家ノ召還方ヲ訓令セリ

尚帝國政府ハ將來ニ於ケル東支鐵道ノ經營運行ノ確保改善ニ對シ多大ノ利害關係ヲ有スルヲ以テ他關係國政府ト予メ協議ヲ遂ケ置キタルガ今回在支帝國公使ヲシテ十月三十一日支那國政府ニ左記ノ通申入レシメタリ尚關係列國代表者モ同趣旨ノ申入ヲナシタリ

註 本件「左記」ハ十月三十一日附在中國小幡公使ヨリ顧中國

外交總長宛公文全文ナリ右公文ニ付テハ後出ノ十一月十日

附内田外務大臣ヨリ在本邦米國大使宛並一普通第一五五号

ノ附屬書(日本文) 參看

八〇四

六八八 十一月五日

在ハルビン山内總領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

東支鐵道ノ所屬及管理問題ニ関シオストロ―

モフノ島田副領事ヘノ内話報告ノ件

第三八七号

(十一月五日接受)

十一月四日島田ハ着任挨拶ノ為「オストローモフ」ヲ訪問シタルニ彼ハ極内密ノ話トシテ左ノ通り語レリ

長春會議開催前「ヤンソン」オザルニン」同道シテ自分ヲ來訪シ東支鐵道ヲ露國ノ鐵道タラシムルコト如何ト質問シタルニ對シ自分先ツ自分モ露國人タルコトヲ述べ就任以來本鐵道ニ付テハ飽迄商業政策ニ依リテ經營シ來リタル処今若シ強力ニ依リテ露國鐵道タラシメントセバ徒ニ破壞アルノミナリ露國ハ交通上經濟上之ヲ利用シ得レハ可ナルニアラズヤ即チ機ヲ見テ支那ヲ初メ關係列國ト交渉ヲ開始シ出來得ル限り相手國ニ讓歩シ例ヘハ日本ニ對シテハ嘗テ帝政時代ニモ話アリタル如ク南部線ヲ讓渡スル等夫々話ヲ纏メ結局完全ニ東支鐵道ヲ利用スルコトスル方有利ニシテ殊ニ露亞銀行ト支那政府トノ契約ニ依リ露國政府ハ本社理事ノ任命權ヲ有ス故ニ露國側ニ於テ適當ノモノヲ理事ニ任命

シ漸次内部ヨリ露國ニ有利ナル狀態ニ誘致スルコト最モ実行上好都合ナリト思考ス今一時ニ外部ヨリ強力ヲ以テスルカ如キハ策ノ得タルモノニアラズ要ハ漸進主義ニ依ラザルベカラズト信ズト答ヘタルニ「ヤ」「オ」兩人共之ヲ諒トシ引取りタルカ故ニ特筆スヘキハ「ヨッフエ」ノ行動ナリ

「ヨ」ハ長春會議失敗後名譽恢復ノ為是非共東支鐵道問題ヲ有利ニ解決セント焦リ其結果最近種々面倒ナル問題ヲ惹起シ居レル次第ナリ尚承り度キハ若シ齊多側ハ附屬地内ニ其軍ヲ入ルル様ノコトアラハ日本側ハ如何ナル態度ニ出ツヘキヤト問ヘルニ付島田ハ斯ル重大問題ニ付答フルコト

能ハザルモ私見ヲ申セバ日本ハ各種ノ方面ニ於テ利害關係アリ東支鐵道ノ成行ニ関シテハ深甚ノ注意ヲ払ヒ其真相ニ通シ居ルコト必要ナリト思考スト述ヘタル由ナリ次テ島田ハ往電第三八一号従業員「ストライキ」計画ノ件ニ付実否「オ」ニ確メタル処「ボルシエヴィキ―」派従業員ヨリ十一月七日革命祭ヲ行ハンコトヲ提議シタルノ事実アリ多少不穩ナル行動行ハレ居レリト答ヘ(左党新聞記者ハ「ストライキ」計画說ヲ否認ス)又最近在巴里勞農非公式代表者「スコベレロフ」ト「プチーロフ」トノ間ニ東支鐵道ニ関

一九「シベリア」及東支兩鐵道管理ニ関スル件 六八九

スル或種ノ契約締結セラレタリ(齊多機關紙記者ノ内話)トノコトナルガ事實如何ト問ヘルニ對シ「オ」ハ右ニ就テハ露亞銀行ニモ自分ニモ何等通知ナキニ付風説ニ止ルヘシト云ヘリ  
最後ニ「オ」ハ白軍避難民ノ附屬地入來ハ齊多側ノ圧迫ヲ誘致シ附屬地ノ平和ヲ害スヘキニ付先般自分ヨリ朱慶瀾ニ交渉シ右入來ヲ禁止スルコトナレリト語リタリ  
右北京ヘ電報済ミ

六八八 十一月十日

内田外務大臣ヨリ  
在本邦米國大使宛

連合國ノ東支鐵道監理協定ノ終結ニ関シ中國

政府ニ申入ノ公文写送付ノ件

附屬書 十月三十一日附在中國小幡公使ヨリ顧中國外交

總長宛公文写

亞一普通第一五五号

以書束至啓上候陳者一九一九年ノ聯合國鐵道監督協約ニ依リ設置セラレタル各機關ノ終結方ニ関スル最近ノ取極ニ基キ十月三十一日貴國政府ヨリ支那政府ニ交付セラルル管ナリシ公文写十月三十日附貴束ヲ以テ御送付相成領承致候

八〇五

帝國政府ニ於テモ前記取極ニ基キ十月三十一日支那政府ニ申入ヲ了シ候条右公文写訳文ト共ニ御参考ノ為玆ニ及御送付候条御査閱相成度此段申進候旁々本大臣ハ玆ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

## (附屬書)

十月三十一日附在中国小幡公使ヨリ顧中国外交総長宛公文写  
連合國ノ東支鐵道監理協定ノ終結ニ付申入ノ件

以書翰致啓上候陳者帝國浦潮派遣軍ハ本月二十五日ヲ以テ西比利亞本土ヨリ引揚ケ玆ニ聯合國軍隊ハ全部該地方ヨリ撤退セル次第ナルヲ以テ今般關係各國ハ予テ露西亞國人民ノ為ニ一時東支鐵道及西比利亞橫斷鐵道ヲ運行スルノ目的ヲ以テ一九一九年一月聯合國間ニ締結セラレタル是等鐵道ニ関スル協定ハ一九二二年十月三十一日限消滅スルコトニ同意シ既ニ帝國政府ニ於テハ右一九一九年ノ協定ニ基キ設置セラレ爾來是等鐵道ヲ克ク世界商業ノ自由通路トシテ維持スルニ最与テ力アリタル在浦潮聯合國委員會及在哈爾濱技術部帝國代表者ニ對シ聯合國各同僚ト共ニ是等機關ノ事務ヲ整理シ同日ヲ以テ其ノ業務ヲ終了スヘキ旨訓令済ニ有之候

右決議ニ関連シ帝國ハ從來直接又ハ前記聯合國委員會及技術部ヲ經テ東支鐵道援助ノ為ニ貸附セル資金材料其ノ他一切ノ權利ヲ留保シ且ツ帝國政府ハ東支鐵道カ何等現存ノ諸權利ヲ毀損スルコト無ク結局當該權利者ニ還附セラルルノ目的ヲ以テ保全セラルヘキ期待ヲ明ニスルト共ニ該鐵道カ有効ナル運行ヲ持續シ貴國ヲ含ム各國人民ニ對シ克ク商業ノ自由通路トシテ特權ノ附与又ハ差別待遇等ノコトナク一律平等公平ニ維持セラルヘキハ当然ノ儀ト思料致候帝國政府ハ又前顧ノ關係並過去四年間ニ亘リ物質上並聯合國委員會及技術部ノ事業ニ依リ東支鐵道ノ維持運行上重要ナル寄与ヲ為セルノ事實ニ鑑ミ今後該鐵道ノ經營狀態並斯ク貴國政府ノ責任ニ帰シタル義務ノ履行方ニ関シ引続キ深甚ノ注意ヲ怠ラサルヘク候

将又之ト同時ニ帝國政府ハ本問題ニ関シ貴國政府ニ對シ善隣ノ有誼ト満幅ノ好意トヲ披瀝スルト共ニ協議協同ノ精神ヲ以テ該鐵道ノ保全並各關係者ノ為ニ有効ナル運行ヲ確保スル為何時ニテモ出来得ル限り貴國政府並關係各國政府ト共ニ協力援助スルニ吝ナラザルベキコトヲ言明致候  
右帝國政府ノ訓令ニ依リ此段照會得貴意候 敬具

右ノ次第ヲ貴國政府ニ通達スルニ際シ帝國政府ハ最近華府會議ニ於テ採用セラレタル左記決議ヲ確認致候

東支鐵道ヲ其ノ利害關係者ノ為ニ保全スルニ付テハ鐵道ニ對シ並其ノ運用及使用ニ從事スル者ニ對シ一層ノ保護ヲ与フルコト業務ノ能率ヲ挙クル為職員ノ選任ニ一層留意スルコト且財産ノ消耗ヲ防ク為資金ノ使用ヲ一層經濟的ナラシムルコトヲ必要トスルコト

本問題ハ適當ナル外交機關ヲ通シ速ニ処理セラルヘキコト

帝國政府ハ更ニ當時貴國以外ノ各國ニ依リ採用セラレタル左記決議ヲ確認致候

支那國以外ノ諸國ハ東支鐵道ニ関スル決議ヲ協定スルニ當リ前記諸國カ該鐵道建設ノ基礎タル契約及之ニ基ク支那國ノ行為ヨリ生スルモノト認ムル東支鐵道会社ノ株主、社債權者及債權者タル外國人ニ對スル義務並該鐵道ノ占有及管理ニ對スル支那國政府ノ權力行為ヨリ生スル義務(前記諸國ハ此義務ヲ以テ信託ノ性質ヲ有スルモノト認ム)ノ履行又ハ不履行ニ関スル支那國ノ責任ニ付今後主張スルノ權利ヲ留保ス

大正十一年十月三十一日

小幡 公使

顧外交総長殿

(右英訳文)

## Translation.

From the Japanese Minister at Peking  
to the Chinese Minister for Foreign  
Affairs.

Peking, Oct. 31, 1922.

Excellency,

Under the instructions of my government, I have the honour to inform Your Excellency that the withdrawal of the Japanese expeditionary forces in the Siberian mainland having been completed on the 25th, instant, thus marking the final withdrawal of the allied troops from these regions, it has been agreed among the Powers concerned that the inter-allied railway agreement of January, 1919, the purpose of which it was to operate tem-

porarily the Chinese Eastern and Trans-Siberian railways in the interest of the Russian people, definitely terminates on October 31st, 1922.

The Japanese representatives on the interallied committee at Vladivostok and the Technical Board at Harbin, both of which were created by the said 1919 agreement and have since been making the most efficient contributions toward the maintenance of these railways as a free avenue of the world's commerce have accordingly been instructed by the Japanese Government to at once proceed in collaboration with their allied colleagues to winding up of all affairs of their respective organizations and to terminate on that date any further functioning of these bodies.

In conveying the above information to the knowledge of the Chinese government, the Japanese government confirm the resolutions with respect to the Chinese Eastern Railway adopted at

which the railroad was built and the action of China thereunder and the obligations which they deem to be in the nature of a trust resulting from the exercise of power by the Chinese Government over the possession and administration of the railroad."

Japan in this Connection reserves to itself all the rights including those with respect to the advances in money and material which have been made by it in aid of the Chinese Eastern Railway, either directly or through the medium of the Inter-Allied Committee or the Technical Board. The Japanese Government also reaffirm their concern in preservation of the Chinese Eastern Railway with a view to its ultimate return to those in interest without impairing any existing rights as well as their continued interest in efficient operation of the railway and its maintenance as a free avenue of commerce open to citizens of all coun-

the recent Washington Conference which read as follows:—

"Resolved, That the preservation of the Chinese Eastern Railway for those in interest requires that better protection be given to the railway and the persons engaged in its operation and use, a more careful selection of personnel to secure efficiency of service, and a more economical use of funds to prevent waste of the property.

That the subject should immediately be dealt with through the proper Diplomatic channels."

"The Powers other than China, in agreeing to the resolution regarding the Chinese Eastern Railway, reserve the right to insist hereafter upon the responsibility of China for performance or non-performance of the obligations towards the foreign stockholders, bondholders and creditors of the Chinese Eastern Railway Company which the Powers deem to result from the contracts under

tries including China without favour or discrimination.

Having regard to their concern in the above and to the important contributions which they have made to the maintenance and operation of the Chinese Eastern Railway during the past four years, both materially and through services of the Inter-Allied Committee and the Technical Board, the Japanese Government will not fail to continue to observe carefully the administration and operation of the railway and the manner in which the Chinese Government discharge their obligations which they have thus assumed.

At the same time the Japanese Government desire to assure the Chinese Government of their friendly interest and entire good will and readiness to assist or cooperate in a spirit of mutual consultation and accord with the Chinese Government and the other Governments concerned, at any

time, in any practical way, with a view to conserving the railway and assuring efficient operation in the interest of all concerned. I avail etc.

---

日本外交文書 大正十一年 第一冊 終

附錄 日本外交文書 大正十一年 第一冊 日附索引